

平成19年度 教員個人評価の集計・分析報告書

佐賀大学理工学部

評価委員会

平成20年12月

目 次

平成19年度教員の個人評価について.....	1
1. 教員個人評価の実施状況.....	2
1.1. 対象教員数、個人評価実施者数、実施率など.....	2
1.2. 教員個人評価の実施概要.....	2
1.2.1. 評価組織：理工学部評価委員会、理工学部個人評価実施委員会.....	2
1.2.2. 実施経緯、内容、方法等.....	2
1.2.3. 添付資料.....	5
2. 理工学部学科・工学系研究科教員ならびに職員（教育研究支援職員及び事務系職員） が組織的に一丸となって行った教育研究活動等.....	6
3. 評価領域別の集計及び分析.....	7
3.1. 教育の領域.....	7
3.1.1. 講義担当等に関する事項.....	7
3.1.2. 教育改善に関する事項.....	9
3.1.3. 教育研修・FDに関する事項.....	18
3.1.4. オフィスアワーの設置と学生相談に関する事項.....	20
3.1.5. 学生の受賞等.....	21
3.2. 研究の領域.....	23
3.2.1. 著書、論文等の発表実績.....	23
3.2.2. 共同研究などに関する活動実績.....	24
3.2.3. 受賞等の実績.....	26
3.3. 国際・社会貢献の領域.....	28
3.3.1. 国際交流実績.....	28
3.3.2. 社会貢献実績.....	29
3.4. 組織運営の領域.....	33
4. 教員の総合的活動状況評価の集計・分析と自己点検評価.....	35
4.1. 各領域における自己点検評価点ならびに達成度.....	35
4.2. 評価領域に関する自己点検評価点のヒストグラム.....	36
4.3. 評価委員からのコメント.....	44

平成20年度理工学部評価委員会委員名簿

平成19年度教員の個人評価について

理工学部における教員の個人評価は、各教員から提出された個人目標申告書、教員報告書及び自己点検・評価書を基に、理工学部評価委員会の下に置かれた理工学部個人評価実施委員会において、この度、平成19年度分についての結果が取りまとめられました。

自己点検・評価は、教育、研究、国際交流・社会貢献及び組織運営の領域ごとの領域評価と総合評価が、それぞれ5段階の評価点で記入されており、個人評価実施委員会は、各教員の個人目標申告書、教員報告書及び自己点検・評価書に基づいて、本学及び本学部の目標達成に向けた活動という観点から審査し、それらを基に評価を行いました。

教員の個人評価は、試行を含めると今回が4度目であり、理工学部教員の多くは概ね妥当な自己点検・評価を行っているものと判断されました。

なお、一昨年度からは、個人達成目標として掲げる各領域の事項に、学科で達成すべき共通目標を盛り込み、若干客観性をもたせる工夫をしていますが、掲げる目標が意義あるもので、かつ、その設定のレベルが妥当であるか、目標達成によりどのような改善・効果が期待できるのかなど、各人の個性的な取り組みとともにその成果の質的検証・評価が今後ますます重要になってくると思われます。

本冊子は、学科毎に集計された教員の活動実績及び自己評価の結果を、理工学部として「教員個人評価の集計・分析報告書」と題し取りまとめたものですが、今後、このような教員の個人評価が単なる評価作業に留まることなく、自己の教育研究等の活動改善が継続的に図られ学部・研究科のさらなる活性化に資することを期待する次第です。

理工学部長 中 島 晃

1. 教員個人評価の実施状況

1.1. 対象教員数、個人評価実施者数、実施率など

理工学部7学科と大学院工学系研究科（博士前期課程と博士後期課程）所属の教員（教授、准教授、講師、助教）に対して、別紙様式1～4に関して教員個人評価を実施し、全員から回答を得た（実施率100%）。

学 科	職 種	対象教員数	実施率(%)
数理科学科	教 授	7	100
	准教授	4	100
物理科学科	教 授	7	100
	准教授	8	100
知能情報システム学科	教 授	6	100
	准教授	6	100
	助 教	4	100
機能物質化学科	教 授	11	100
	准教授	13	100
	助 教	6	100
機械システム工学科	教 授	10	100
	准教授	9	100
	助 教	6	100
電気電子工学科	教 授	10	100
	准教授	10	100
	助 教	3	100
都市工学科	教 授	10	100
	准教授	8	100
	助 教	2	100
理工学部 (合計)	教 授	61	100
	准教授	58	100
	助 教	21	100

(本表の准教授欄の人数は講師を含む。)

1.2. 教員個人評価の実施概要

1.2.1. 評価組織：理工学部評価委員会、理工学部個人評価実施委員会

1.2.2. 実施経緯、内容、方法等

① 平成20年2月7日 理工学部評価委員会

- ・教員報告様式（全学統一様式）の選択項目の入力について決定した。
- ・評価スケジュール、平成19・20年度教員個人評価様式、教員個人評価（学科）集計と分

析報告書の様式を決定した。

・平成19年度の教員個人評価は、平成20年度の学科長があたることを決定した。

② 平成20年2月12日

情報政策委員会委員長から、全教員に対し、別途送付される教員報告様式（CD-R）へ情報を入力し、3月31日までにホームページからアップロードするよう依頼があった。

③ 平成20年2月18日

学部長は、全教員に対し、1年前（平成19年4月以降の採用者は採用後）に提出された各様式と新しい「別紙様式1（平成19年度の「個人目標申告書」）、3（平成19年度の「自己点検・評価書」）、4（平成19年度の「個人評価結果」）」をメールにて送付し、平成19年度の自己点検・評価を依頼し、別紙様式1、3、4を3月17日から28日までの間に提出するよう依頼した。

同時に、平成20年度の各様式もメールにて送付し、別紙様式1（平成20年度の「個人目標申告書」）の作成・提出も併せて依頼した。

④ 平成20年3月10日

教員報告様式（CD-R）を全教員に配布した。

⑤ 平成20年3月10日～3月下旬

各教員は、教員報告様式を作成し、3月末までにサーバーにアップロードすることになった。その際、同報告様式の送付先を各学科の評価担当者（平成20年度学科長）に指定することになった。

また、各教員は、教員報告様式を参考にして、平成19年度の自己点検・評価を行い、その結果を、新しい別紙様式3に記載し、別紙様式1、4を含め3月17日から28日までに学部長へメールにて提出することになった。その際、1年前（平成19年4月以降の採用者は採用後）に提出された別紙様式1から、平成19年度の「個人目標」を新しい別紙様式1に転記することになった。

同時に、平成20年度の各目標を別紙様式1に記載し、別紙様式3、4を含め学部長へメールにて提出することになった。

⑥ 平成20年4月15日

学部長は、各教員から提出された平成19年度の各様式（1、3、4）を各学科長に送付した。また、同時に、「平成19年度教員個人評価（学科）集計と分析報告書」の様式も送付し、同報告書の作成を依頼した。（フラッシュメモリを手渡した。）

⑦ 平成20年4月中旬～5月末

各学科長は、別紙様式1、サーバーにアップロードされた教員報告様式及び別紙様式3に基づいて、本学及び本学部の目標達成に向けた活動という観点から審査し、これらを基に評価を行い、評価結果を、別紙様式4（平成19年度の「個人評価結果」）に記載の上、5月末までに別紙様式1・3を含め、学部長に送付することとなった。

また、同時に、各学科長は、平成19年度の個人評価結果について、各学科の集計と分析を行い、その結果を、「平成19年度教員個人評価（学科）集計と分析報告書」に記載し、学部長

へ提出することになった。(学科長は、フラッシュメモリと印刷物(ペーパー)を学部長へ手渡す。)

⑧ 平成20年9月上旬

学部長は、理工学部個人評価実施委員会に対し、個人評価結果の審査を付託する。

⑨ 平成20年9月中旬～9月末

同実施委員会は、本学及び本学部の目標達成に向けた活動という観点から審査し、その結果を学部長へ報告する。

⑩ 10月上旬～10月中旬

学部長は、別紙様式1、サーバーにアップロードされた教員報告書及び別紙様式3「自己点検・評価書」に基づいて、本学及び本学部の目標達成に向けた活動という観点から審査し、別紙様式4(平成19年度「個人評価結果」)の評価内容を確認し、必要があれば、評価結果の補足等及び学部長コメントを記載することとなった。なお、学部長は、審査にあたり、審査の公平性を確保するために、必要に応じ、他の職員から意見を求めることになった。また、学部長は、必要に応じ、評価内容について、当該教員から意見を聴取することになった。

⑪ 平成20年10月17日

学部長は、自己点検・評価書に評価結果を記入した別紙様式4(平成19年度「個人評価結果」)を当該教員に封書で通知した。その際、学科毎の平成19年度教員個人評価集計と分析報告書を添付した。

⑫ 平成20年10月17日～10月30日

各教員は、個人評価の結果に対して異議がある場合は、通知後2週間以内(10月30日まで)に異議申立書(様式任意)を学部長に提出することとなった。

(異議申立書を提出した教員はいなかった。)

⑬ 平成20年11月初旬～12月中旬

学部版の教員個人評価集計・分析報告書(案)を取りまとめた。

⑭ 平成20年12月中旬

学部長は、学部版の教員個人評価集計・分析報告書を作成し、理工学部評価委員会に対し、本学部の教員個人評価結果の総合的な検討を付託する。

⑮ 平成20年12月下旬

評価委員会は、本学部の教員個人評価結果の総合的な検討を行い、同報告書を承認し、その結果を学部長に報告する。

⑯ 平成20年12月下旬

学部長は、「教員個人評価集計・分析報告書」を添えて理工学部教員の個人評価結果を学長に報告する。

1.2.3. 添付資料

国立大学法人佐賀大学大学評価の実施に関する規則（平成 17 年 3 月 1 日制定）

佐賀大学理工学部における教員の個人評価に関する実施基準

「理工学部における個人達成目標の指針」（教員用）

個人目標申告書（別紙様式 1）

教員報告書（別紙様式 2）：理工学部・工学系研究科教員活動実績年次報告書（推奨様式）に
読み替え

自己点検・評価書（別紙様式 3）

個人評価結果（別紙様式 4）

2. 理工学部学科・工学系研究科教員ならびに職員（教育研究支援職員及び事務系職員）が組織的に一丸となつて行つた教育研究活動等

はじめに、理工学部教員ならびに職員が組織的に一丸となつて行つた教育研究活動等を以下に示す。

- 平成 19 年度理工学部・工学系研究科国際パートナーシップ教育プログラム（平成 16 年度より）：
 - 相手国：中国、韓国、インドネシア
 - 数理科学科、物理科学科、知能情報システム学科、電気電子工学科、機械システム工学科、機能物質化学科、都市工学科の教員（一部）が参画
- 大学院（工学研究科と農学研究科との連携）国際環境科学特別コース
 - 電気電子工学専攻、機械システム工学専攻、機能物質化学専攻、都市工学専攻、生体機能システム制御工学専攻、エネルギー物質科学専攻（後期課程）、生体機能システム制御工学専攻（後期課程）、システム生産科学専攻（後期課程）の教員が参画
- 平成 19 年度佐賀大学短期留学プログラム（SPACE）（平成 13 年度より）：協定校からの交換留学生の教育プログラム：物理科学科、知能情報システム学科、機能物質化学科、電気電子工学科、都市工学科の教員（一部）が参画
- 高等学校ジョイントセミナー、出張講義等
- 環境美化エコ活動
 - 平成 19 年度省エネルギー活動：夏季ピーク電力の抑制策：7 月、8 月期ならびに 12 月、1 月期の空調断続運転
 - 定期的なキャンパス環境美化デーにおける一斉清掃

3. 評価領域別の集計及び分析

3.1. 教育の領域

3.1.1. 講義担当等に関する事項

表 3.1 に教員の担当科目数（学部、修士）、受講学生数（延べ人数）、卒業研究指導学生数、修士特別研究指導学生数、博士研究指導学生数（主指導）を表している。

表 3.1 教員 1 人当たりの講義担当、指導学生数

学 科	職 種	学 部 (教養教育科目を含む)			大 学 院			
		担当 科目 数/ 教員	受講 生数 延べ 数	卒研 学生 指導 数	担当 科目 数/ 教員	受講 生数 延べ 数	修士 学生 指導 数	博士 学生 指導 数
数理科学科	教 授	4.6	172	3.6	1.9	12.0	2.3	0.3
	准教授	5.5	192	2.4	1.5	11.0	2.0	
物理科学科	教 授	6.0	318	2.9	2.6	14.4	2.6	0.3
	准教授	5.0	180	2.6	2.1	12.9	1.3	0.3
知能情報 システム学科	教 授	7.3	312	5.3	2.5	13.7	4.5	1.3
	准教授	7.5	338	3.8	1.5	16.5	1.5	
	助 教	2.5	106	0.8				
機能物質化学科	教 授	5.8	247	2.7	3.4	30.0	3.9	2.7
	准教授	6.2	214	2.5	3.3	36.0	3.2	
	助 教	0.0	330	1.5				
機械システム 工学科	教 授	5.1	339	4.1	4.4	43.9	6.3	1.5
	准教授	5.8	332	3.3	2.8	25.1	2.9	
	助 教	3.0	25	1.0				
電気電子工学科	教 授	5.9	347	6.7	4.0	47.6	7.1	1.6
	准教授	6.2	271	2.4	3.1	15.1	3.6	
	助 教	-	-	-				
都市工学科	教 授	4.6	289	4.4	2.4	25.5	3.4	1.0
	准教授	4.9	305	3.1	1.5	15.8	1.6	
	助 教	1.0	37	0.0				

受講生数は教務システムに登録された履修者数

同一の講義科目（実験実習を除く）を複数の教員で担当する場合、

- ・半期を通して担当するときは、受け持ちの受講学生数を記入
- ・時間を分割して担当するときは、その時間数で按分した受講学生数を記入

【数理科学科】

- ・ 教授は学部（平均：担当科目数 4.6 科目、延べ人数 172 名）、卒研指導学生数 3.6 名、修士指導学生数 2.3 名、博士指導学生数 0.3 名である。
- ・ 准教授は学部（平均：担当科目数 5.5 科目、延べ人数 192 名）、卒研指導学生数 2.4 名、修士指導学生数 2.0 名であり、教授よりも多くの科目、学生の教育を担当している。

【物理科学科】

- ・ 教授は学部（平均：担当科目数 6.0 科目、延べ人数 318 名）、卒研指導学生数 2.9 名、大学院授業科目 2.6 科目、修士指導学生数 2.6 名、博士指導学生数 0.3 名である。
- ・ 准教授は学部（平均：担当科目数 5.0 科目、延べ人数 180 名）、卒研指導学生数 2.6 名、大学院授業科目 2.1 科目、修士指導学生数 1.3 名、博士指導学生数 0.3 名である。卒業研究・特別研究を除く学部・大学院授業担当については、教授が准教授より 1 コマ(時間数)分多くの科目を担当することになっている。平成 19 年度は平均で、教授 7.9 コマ、准教授 6.0 コマであった。学科内で授業の担当についてはコマ数で分担を決めているため、科目数ではばらつきが見られる。
- ・ 博士前期課程については、研究指導資格のある教員については学生の希望を第一に担当を決めており、結果として一部の教員に学生が多くなる傾向がある。また、研究指導資格取得時期の関係で、この表には挙らないが実質的に指導している准教授がいる。

【知能情報システム学科】

- ・ 教授は学部（平均：担当科目数 7.3 科目、延べ人数 312）、卒研指導学生数 5.3 名、修士指導学生数 4.5 名、博士指導学生数 1.3 名である。
- ・ 准教授は学部（平均：担当科目数 7.5 科目、延べ人数 338 名）、卒研指導学生数 3.8 名、修士指導学生数 1.5 名である。准教授の中には博士後期課程の副指導教員となって、実質的指導を行っている教員がいる。
- ・ 助教は主に実験指導を担当している。指導する学生数は平均 0.8 名である。助教は、教授あるいは准教授の指導支援（学生の学習関わる生活相談など）を行っていることが報告されている。

【機能物質化学科】

- ・ 教授は学部（平均：担当科目数 5.8 科目、延べ人数 247 名）、卒研指導学生数 2.7 名、修士指導学生数 3.9 名、博士指導学生数 2.7 名である。
- ・ 准教授は学部（平均：担当科目数 6.2 科目、延べ人数 214 名）、卒研指導学生数 2.5 名、修士指導学生数 3.2 名であり、教授よりも多くの科目の教育を担当している。准教授の中には博士後期課程の副指導教員となって、実質的指導（5 名）を行っている教員がいる。
- ・ 助教は主に実験指導を担当している。指導する学生数は平均 330 名で前期後期を通じて 5.0 コマ(時間数)を担当している。更に、助教は、教授あるいは准教授の指導支援（学生の学習関わる生活相談など）を行っていることが報告されている。
- ・ 教授と准教授は専門科目に関して平等に教育を担当するようにカリキュラムが組まれており、

卒研配属の学生数も同じである。助教にも卒研学生（平均 1.5 名）が配属され、卒業研究の指導を行っている。

【機械システム工学科】

- ・ 教授は学部（平均：担当科目数 5.1 科目、延べ人数 339 名）、卒研指導学生数 4.1 名。大学院（平均：担当科目数 4.4 科目、延べ人数 43.9 名）修士指導学生数 6.3 名、博士指導学生数 1.5 名である。
- ・ 准教授は学部（平均：担当科目数 5.8 科目、延べ人数 332 名）、卒研指導学生数 3.3 名。大学院（平均：担当科目数 2.8 科目、延べ人数 25.1 名）修士指導学生数 2.9 名である。准教授の中には博士後期課程の副指導教員となって、実質的指導を行っている教員がいる。
- ・ 助教は主に実験指導を担当している。指導する学生数は 25 名で前期後期を通じて分担で 3 コマ(時間数)を担当している。卒研指導学生数は 1 名である。更に助教は、教授あるいは准教授の指導支援（学生の学習関わる生活相談など）を行っていることが報告されている。また、助教の一人は大学院教育学研究科の兼任として講義を行っている。

【電気電子工学科】

- ・ 教授は学部（平均：学部担当科目数 5.9 科目、延べ人数 347 名、修士担当科目数 4.0 科目、延べ人数 47.6 名）、卒研指導学生数 6.7 名、修士指導学生数 7.1 名、博士指導学生数 1.6 名である。
- ・ 准教授（講師含む）は学部（平均：学部担当科目数 6.2 科目、延べ人数 271 名、修士担当科目数 3.1 科目、延べ人数 15.1 名）、卒研指導学生数 2.4 名、修士指導学生数 3.6 名であるが、学生実験科目を含むので、教授と同程度の学生の教育を担当している。准教授の中には博士後期課程の副指導教員となって、実質的指導を行っている教員もいる。
- ・ 助教は主に実験指導を担当している。更に、助教は、教授あるいは准教授の指導支援（学生の学習や研究活動に関わる生活相談など）を行っている。

【都市工学科】

- ・ 教授は学部（平均：担当科目数 4.6 科目、延べ人数 289 名）、卒研指導学生数 4.4 名、修士指導学生数 3.4 名、博士指導学生数 1.0 名である。
- ・ 准教授は学部（平均：担当科目数 4.9 科目、延べ人数 305 名）、卒研指導学生数 3.1 名、修士指導学生数 1.6 名、教授とほぼ同じ程度学生の教育を担当している。准教授の中には博士後期課程の副指導教員となって、実質指導を行っている教員がいる。

助教は主に実験指導を担当している。指導する学生数は平均 37 名で前期後期を通じて 2 コマ(時間数)を担当している。更に、助教は、教授あるいは准教授の指導支援（学生の学習関わる生活相談など）を行っていることが報告されている。

3.1.2. 教育改善に関する事項

教育改善に関し、理工学部各学科の教員は、次のような取り組み、実践をおこなっている。

【数理科学科】

教育改善に関する努力として、以下の事項が実践されていると記載がある。

- ・ 授業の進む速さを適切にし、講義を行った。(准教授)
- ・ 新しい教材を導入し、学生の素養の育成を図った。(教授)
- ・ 講義にスムーズに入れるように、教材の配列に工夫を凝らした。(教授)
- ・ 身障者を考慮した教室へと変更した。(准教授)
- ・ 講義内容の重要事項をまとめたレジメや「理解度チェックテスト」を作成・配布した。(准教授)
- ・ 毎回紙を配って質問を回収し、翌週その回答をプリントして配った。(准教授)
- ・ 抽象的な概念を具体的なイメージがわくように説明した。(准教授)
- ・ 講義の内容に関する復習問題を解答させ、演習後提出させ講義内容の定着を図った。(准教授)
- ・ 講義プリントを web で公開し、予習復習ができるようにした。(准教授)

【物理科学科】

教育改善に関する努力として、以下の事項が実践されていると記載がある。

- ・ 学生のレベルに合わせたテキストの自作と Web 公開 (教授)
- ・ 昨年度の理工学部 FD 企画「e-Learning 講習会」で得た知識を基に、学生に自主学習させるための問題を多数掲載したサイトを構築し、実際に学生の基礎学力が向上した。(教授、准教授)
- ・ 出席カードにその時間の要約と質問、要望などを授業ごとに書かせ、提出させた。すべてに対処は出来なかったが、最低限学生の傾向をより知ることが出来た。(教授)
- ・ 基礎事項の周知を徹底させるために、テスターの取り扱いとグラフの書き方についての実習を新たに取り入れた。(准教授)
- ・ 前年度の経験から、学生が電流計やノギスなど基礎的な測定器の扱いに極めて不慣れであることが分かったので、それらの実習のための一斉授業を一コマ設けた。これによりその後のグループ実験がややスムーズに運ぶようになった。(教授)
- ・ 小テストを実施し、基本的な知識の習得を確認している。(教授)
- ・ 学部 1 年生にゼミ形式で学習させ、毎週一人ずつ発表させることにより、物理の内容の理解を深めるとともに、プレゼンの練習も兼ねた。(准教授)
- ・ 授業の前半は、担当を決めて自作のテキストの内容を発表させた。後半はテキストから演習問題をレポートとして出題した。(教授)
- ・ パワーポイントによる講義を行い、文章や数式では理解しがたい概念を視覚的に説明している。(教授)
- ・ 講義のスライドを個人のホームページに掲載し、復習の便に供した。(教授)
- ・ 演習問題を収録した自作のテキストを公開し、学生が予習・復習をできるようにしている。LMS に演習問題を掲載し、自習できるようにしている。(教授)
- ・ 中間試験を行った。2 回、複数題の演習問題を課し、レポートとして提出を求め、模範解答の解説を行った。(教授)
- ・ テキストを配布して、予習復習ができるようにした。(准教授)
- ・ 大学院博士後期課程学生には学外での研究発表を義務化。(教授)

- ・ 毎回、質問票を回収し、次の回に回答を配布している。(教授)
- ・ 再試験の前に補習を行った。(准教授)

【知能情報システム学科】

- ・ スライドの切り替えが早いときがあるという指摘に対して、スライドの改善と e-Learning システムによる課題配布を行った。(准教授)
- ・ 毎回、e-Learning により演習問題を出題した。授業のスライドをインターネットで公開した。(准教授)
- ・ 毎回、授業内容を復習あるいは発展させる課題を課した。授業のスライドをインターネットで公開した。(准教授)
- ・ 毎回の課題の解答例や授業のスライドをインターネットで公開した。(准教授)
- ・ 毎週個別に進捗状況の確認を行い、状況に即した指導・助言を行った。(准教授)
- ・ 毎週テキストを予習してくるよう指示を行った。(准教授)
- ・ 毎回、授業に関連する課題レポートを出した。(准教授)
- ・ 毎週、e-Learning により演習問題を出題した。(准教授)
- ・ 毎週、事前にテキストを読んで和訳を行うよう指示を行い、授業中に発表させた。(准教授)
- ・ 理工学部 FD 企画として開催されて e-Learning(LMS)講習会で学んだ方法を活用し、学生が LMS で学習できるサイトを開いて学生の学習支援を行った。(准教授)
- ・ 教科書の内容のうち講義で扱わない部分をあらかじめ提示して、整理した資料を用意して合格者数を昨年より大幅に増やすことに成功した。(准教授)
- ・ 講義はすべて録画して、ストリーミング配信した。また、講義に関する資料や成績情報をホームページ上でユーザ毎に確認できるようにし復習環境を整えた。さらに、再試験を行う際には、指導者の監視の下、自習を義務付けた。(准教授)
- ・ 成績不振者と面談を行い、面談に応じた学生には、各人に応じた勉強法をアドバイスした。(准教授)
- ・ 毎週、具体的に宿題を出し、その内容に関する小テストを行った。また、小テスト・確認テストの成績が悪い学生には、宿題を提出させるようにして、その内容を確認した。さらに、小テスト・確認テストの詳細な解答と誤答例も公開し、復習しやすい環境を用意した。(准教授)
- ・ 毎週、成績情報を公開し、単位を取得するために、小テスト・確認テストおよび定期試験でどれだけの得点が必要になるかを知らせるようにした。そして、すべての講義資料と講義ビデオを Web で公開した。(准教授)
- ・ Moodle を用いて講義 HP を運営し、各種のコンテンツ提供、レポートの回収、評価結果のフィードバック等を行った。(准教授)
- ・ 学生の関心を高めるために、IT 実務家、ベンチャー起業家等を招いて授業の中で講演会を開催した。(准教授)
- ・ 企業や佐賀県庁等に協力して頂き、修士課程学生を対象とした夏休みの長期インターンシップを行った。(准教授)

- ・ 講義 HP で各種の講義コンテンツ等を公開し、学生が授業に欠席せざるを得なかった場合でも、自学自習できるようにした。(准教授)
- ・ 講義 HP を通じた講義コンテンツの提供、レポートの回収、採点結果およびコメントのフィードバック、大福帳を用いた学生の意見・コメントの収集および回答など、様々な工夫や努力を行った。(准教授)
- ・ 受講者に対して授業時間外の学習課題を合計 3 回課した。課題は講義 HP から受け取ることとし、講義 HP から採点結果をフィードバックした。(准教授)
- ・ 大福帳システムを活用して個別学生の状況把握に努め、学力不足の学生を早期に発見し、対応できるように努めた。(准教授)
- ・ 単なる知識の教授に留まることなく、演習や発表を重視した。その際に、出来るだけ具体的な指示を出すよう努めた。講義 HP を通じた講義コンテンツの提供、レポートの回収、採点結果およびコメントのフィードバックなど、様々な工夫や努力を行った。(准教授)
- ・ 毎回の演習時に、個別学生の進捗状況を把握し、次回までの課題を個別に課した。(准教授)
- ・ 毎回の授業の後に学生が提出する質問票を分析精査し、次回以降の授業の質を高めた。(教授)
- ・ 講義終了後毎週オフィスアワーを実施し、学生の相談に応じた。また、学生が教員室への入室に遠慮しないよう講義室にてオフィスアワーを実施した。(助教)
- ・ 講義資料を web で公開し、復習ができるようにした。(助教)
- ・ 授業評価の実施、授業点検評価報告書の提出を行い、当該授業の質の向上を行った。(助教)
- ・ 毎講義レポートを実施した。(助教)
- ・ 研究環境の整備とゼミでの着眼点を主体に提示し、社会人になったあとの仕事上での問題解決を行えるよう創意工夫と自己学習の大切さの意義を個人の性格等を考慮して議論するように心がけた。(助教)
- ・ 最低 3 人ずつのグループを作成し、質問や議論をしやすいようにした。また、実験に必要な PC や簡単な質問に対して TA を活用した。(助教)
- ・ 自宅からや他の時間でも学習できるよう WEB 上でテキストおよび資料、サンプルプログラムを配布し、実験の予習、復習が行いやすいようにした。(助教)
- ・ 修士論文を作成するにあたって必要なコンピュータの操作、ソフト、ハードを準備し研究グループでの共通的な使用方法を提示した。また、研究グループのゼミにおいての問題点、アイデア、進捗状況、手法とその基礎知識を個別に検討し習得させるための議論を行った。また、新規性を研究に盛り込むためのアイデア、方策を提示した。(助教)
- ・ 授業評価結果から学生のわかりにくい部分を図やサンプルプログラムを増やし、学生と教員の質問回答が可能なように e-learning 形式に移行していった。(助教)
- ・ 情報系学科に不足しがちなコンピュータと数学と物理的現象を体感させる実験をおこない、その挙動をグラフ、画像等で視覚化することで、情報を主とするさまざまな分野に対応可能な感覚と相互的な関連性に気づいてもらうことに主眼をおいた。(助教)
- ・ データベースに関わるソフトウェアについてどのソフトを使用した場合でも共通の考え方があることを演習で認識させるような説明を行うように心がけた。(助教)

- ・ レポート提出の際、授業とは別にレポート作成に要した時間を報告させた。(助教)
- ・ 確認テストを毎回行い、フォローを入れた。小テストやレポートを数回行い、ドロップアウトを防ぐ努力をした。(准教授)
- ・ 講義資料の電子化、科目ページへの掲載。質問票の回収およびフィードバック (QA集の掲載)。(准教授)
- ・ 講義資料の電子化による提供。確認テストの解答などの公開、QA集の公開。(准教授)
- ・ 小テスト、確認テストを通じて復習問題を課すことにより、時間外の学習を要求した。(准教授)
- ・ 中だるみを防ぐため、3回のレポートを適宜課し、レポートについて全体で議論する回をもうけた。(准教授)
- ・ レポート課題に自力解決型の応用問題を課した。(准教授)
- ・ 講義ノートを Web で公開し、復習予習に利用できるようにした。(教授)
- ・ 前回の評価結果で講義への興味が薄かったので、授業で符号理論が応用されている例を加えた。(教授)
- ・ 前回の評価結果で復習の時間が少なかったため、復習する機会を与えるため、宿題を課した。(教授)
- ・ 定期試験の正解例、採点基準、評価方法を Web で公開した。(教授)
- ・ 毎回課した小試験を採点し、その総点で成績評価を行った。(教授)
- ・ 毎回授業を行っている小試験の解答を Web で公開した。(教授)
- ・ 毎回小試験と宿題を課し、その結果を成績評価の一部として使用した。(教授)
- ・ 毎回レポートを課し、その提出回数を成績評価の一部として使用した。(教授)
- ・ 講義前半はパターン理解に関する基本事項を講義担当教員が平明に講義し、その後、各受講者の担当を輪講形式にて講義を進めた。各受講者は事前に知らされた担当分野に係る基本事項にかかる担当教員の講義を注意深く聴講することに繋がった。2)輪講形式にて進める講義において受講者のプレゼンテーション能力および質疑応答を通じてコミュニケーション能力の向上が図られた。3)レポート課題およびその周辺項目に対する十分な調査、分析能力が養えるように課題提示の際に工夫した。(教授)
- ・ 講義前半は情報セキュリティと倫理に係る基本事項を講義担当教員が平明に講義し、その後、各受講者の担当を輪講形式にて講義を進めた。各受講者は事前に知らされた担当分野に係る基本事項にかかる担当教員の講義を注意深く聴講することに繋がった。2)輪講形式にて進める講義において受講者のプレゼンテーション能力および質疑応答を通じてコミュニケーション能力の向上が図られた。3)レポート課題およびその周辺項目に対する十分な調査、分析能力が養えるように課題提示の際に工夫した。(教授)
- ・ 1)10点方式：講義の際、質問等発言した受講者に10点を与え、発言を促すことによって受講者の理解の程度を把握する 2)リテール対応方式：各受講者の苦手とする講義細目のミニテストによる把握と当該苦手細目克服のためのレポート課題提示、並びに、そのフォローアップ 3)A4用紙1枚方式：定期試験にA4用紙1枚を持ち込み可として当該用紙作成による試験勉

強を促し、提出させて学習習熟度を評価する。暗記力を試験するのではなく、重要と思われる事項は当該用紙に記入させ、それら知識を使って課題を解く能力を試している。(教授)

- 毎週、研究室ゼミを行い、前学期は基礎的、共通的基本事項を教員、大学院生が講義し、後学期は学生の個別の指導のため、研究進捗状況、適切なガイダンスを与えるように工夫した。
- 2)先輩が後輩を指導する仕組みを整備し、OJTが可能なように配慮した。(教授)
- コンピュータグラフィックスはCG検定試験に合格することを学習到達目標としている。この習熟のためには実技を伴う指導が必須である。また、理解度チェックのための中間試験を2回おこなったが、実技指導の理解度チェックのため、ミニテストをこまめに行うことにする。理解が不足している学生への個別対応、リテール対応が困難なほどに受講者間の能力差が大きい。この克服のため、受講者個別レポート課題をさらに工夫する。Pov-Rayと呼ぶフリーのCGソフトウェアをダウンロード、インストールさせ、講義に併行してプログラムを実行させ、理解を深めるように努力した。また、自由課題にてCG作品を制作させ、レポートとしてファイルを提出させ、実技指導を行った。(教授)
- モデリングとシミュレーションはシミュレーション技法よりもモデリングに重点を置いてシラバスを構築した。シミュレーション技法は数値解析、シミュレーション実験等の科目でカバーされており、本学科の受講生は物理の素養に欠けるとの感が否めないため、体系化された学問、物理、特に力学モデルの講義を多く取り入れた。これにより、学生の得意、不得意がより明確に現れてしまった。中間試験により学生への個別対応、リテール対応を試みたが上述の理由から困難と判断した。次年度はシミュレーション実験における力学モデルに特化して平明な部分に限定して講義する。また、個別課題によるレポートによる成績評価を最終試験に切り替える。(教授)
- モデリングとシミュレーションはシミュレーション技法よりもモデリングに重点を置いてシラバスを構築した。シミュレーション技法は数値解析、シミュレーション実験等の科目でカバーされており、本学科の受講生は物理の素養に欠けるとの感が否めないため、体系化された学問、物理、特に力学モデルの講義を多く取り入れた。これにより、学生の得意、不得意がより明確に現れてしまった。中間試験により学生への個別対応、リテール対応を試みたが上述の理由から困難と判断した。次年度はシミュレーション実験における力学モデルに特化して平明な部分に限定して講義する。また、個別課題によるレポートによる成績評価を最終試験に切り替える。(教授)
- 応用線形数学は一般逆行列の理解と不適切問題解法としてこれを活用することを学習到達目標としている。この習熟のためには線形数学の理解が必須である。そのため、復習のため3コマ分の講義を行い、ミニテストにより理解度をチェックしているが、リテール対応が困難なほどに受講者間の能力差が大きい。この克服のため、受講者個別レポート課題をさらに工夫する。(教授)
- 環境システム工学特別講義ーリモートセンシングーは地球環境の現状、地球環境観測衛星システムおよびセンサーの計測原理を理解することを学習到達目標としている。リテール対応のためのミニテストにより理解度をチェックしているが、リテール対応が困難なほどに受講

者間の能力差が大きい。この克服のため、受講者個別レポート課題をさらに工夫する。(教授)

- ・ 講義ノート web で公開し、予習復習ができるようにした。(教授)
 - ・ H18 年度評価で、声が不明瞭との指摘があった (平均 2.94) ので、H19 年度よりマイクを使用した。その結果、声の大きさ・明瞭さは平均 3.57 に改善された。(助教)
 - ・ 予習用プリント (問題) を配布し、後日回収することで、自主学習を促した。(助教)
 - ・ 講義資料の Web 上への掲示およびオンラインミニテストの設置 (講師)
 - ・ 教科書、参考書を明示した。講義ノートを Web 公開した。(教授)
 - ・ 興味を持つ学生用の発展課題を用意した。(教授)
 - ・ 毎週、演習課題を与えた。(教授)
 - ・ 理解度を向上させるため、演習と講義を組み合わせた。(教授)
 - ・ 分りやすさを向上させるため、サンプルプログラムを充実した。(教授)
 - ・ TA によるきめ細やかな指導を行った。出席を厳格にとった (教授)
 - ・ 講義を全て録画して Web で公開している (教授)
 - ・ 昨年度の講義で教員の対応が十分ではなかったことがわかったため改善を行った (教授)
 - ・ 全てのレポートにコメントを返すことで教員の対応を向上させた。(教授)
 - ・ タイピングの試験を合格するまで何度も行った (教授)
- 予習復習の機会を設けて実行させた (教授)

【機能物質化学科】

機能物質化学科では、教育FD委員会より、「学生による授業評価アンケートを基にした授業改善報告書」を前後期分作成して、学科としての授業評価を実施している。教育改善に関する具体例を以下に記載する。

- ・ 中間試験、期末試験における成績分布の解析に基づく試験報告書の作成 (教授、准教授)
- ・ シラバスの講義内容に基づいた試験問題の作成、試験環境を整え、成績評価の適正化 (教授、准教授)
- ・ 講義ノートの作成とシラバスに沿った講義の実施、講義のポイントをまとめたプリントの配布、チューターによる丁寧な実験指導 (教授、准教授、助教)
- ・ 文字・図をわかりやすくするため OHP の使用と教員の話に集中させるための原図の配布 (教授、准教授)
- ・ 学生の口頭による説明力を養うため、実験レポートの試問時に、実験操作の概要や結果について発言させた。(教授、准教授、助教)
- ・ 学部専門科目の講義において、講義内容を理解させるために毎回小テストを実施 (教授、准教授)
- ・ 教科書に記載されていない重要項目の解説、演習問題の解説、中間・期末試験の問題と解説をホームページに公開 (教授、准教授)
- ・ 分子模型等の教材を用いて、学生の理解度を上げる。(教授)
- ・ 講義内容に関して、最近の話題を紹介して、勉学の動機付けを図っている。(教授、准教授)
- ・ 板書は色づけをし、大きな声でゆっくり話すように努めている。(教授、准教授)

- ・ 毎回宿題を提出し、添削して返却することにより、学生の理解度を上げている。(教授、准教授)
- ・ 演習の時間を多くとり、理解を深めさせるようにしている。さらに、全員が解けるように補助説明(教授、准教授)
- ・ メールアドレスを公開し、質問や提出物の添削は電子メールで個別指導(教授、准教授)
- ・ 基礎物理学及び演習Ⅱ：教育内容、方法、対応は全般的に高く評価されているにもかかわらず、内容への興味を喚起できていないので、講義中の各項目内容と化学との関係、実生活との関係を例示した。また、視覚的教材を利用して、学生の講義内容への興味を持たせるように改善した。さらに、e-Learningにより演習問題を出題し、各自で復習できるようにした。(教授)
- ・ 応用有機化学：学生の満足度はほぼ平均であるが、実情は内容を理解できる学生とできない学生との差がありすぎた。よって、大部分の学生が講義内容を理解できるような説明の工夫などを改善した。また、講義中の学生の反応に注意しながら、専門用語の解説に時間をかけて内容の理解を手助けしていくよう改善した。(准教授)
- ・ 基礎化学Ⅳ：学生が予習・復習をしている時間は少ないことが判ったので、e-Learningなどを用いて、授業時間以外の自己学習をより充実させるよう改善した。(教授、准教授)

【機械システム工学科】

教育改善に関する努力として、以下の事項が実践されていると記載がある。

- ・ 授業を面白く、分かりやすくするように心掛けている。(教授・准教授)
- ・ 授業科目が機械工学とその関連分野についてどのような関わるのかを最新事例等を解説しながら、プロジェクターで見せながら説明している。(教授)
- ・ 前回の評価結果に基づいてテキストを変更した結果、良好な満足度が得られている。(教授)
- ・ 毎週の演習レポート結果により達成度をチェックし、理解度が低い点を次回授業で解説している。(教授)
- ・ 演習および期末試験を2クラスと共通問題で行っている。(教授)
- ・ プロジェクターと板書の併用が不適切との指摘により、板書事項を別途考慮して理解度を上げている。(教授)
- ・ 授業評価アンケートの結果に基づき、特にTAに対する事前研修に力を入れ、実験に際しよりきめ細やかな対応ができるよう対処している。(助教)
- ・ 詳細な資料をPDFファイルで各学生に配布している。(准教授)
- ・ メールを通して毎時間質問を受け、質問に対する回答を公表している。
- ・ 板書の手書き内容をPDFにし各学生に配布している。(准教授)
- ・ 受講生数が少なかったのでできる限り学生自身が考える時間を確保するようにしている。(准教授)
- ・ 少しでも理解が不十分なところがあると過去にさかのぼり徹底的に相談に乗っている。(准教授)
- ・ FDにより昨年度の再評価を行うことで、前年度より合格率が向上している。(准教授)

- ・ 講義内で説明する対象物を、身の回りにある装置を例に出して説明することで、より親しみやすくしている。(准教授)
- ・ 動画などを用いて、できるだけ理解を促すようにしている。(教授・准教授)
- ・ 実際に PC を用いて数値計算を行い、座学のみとならないようにしている。(准教授)
- ・ 板書の代わりにパワーポイントによる説明および専用 HP を開設して、そのファイルを復習用に掲示している。(准教授)
- ・ e ラーニング、小テスト問題の充実を行っている。(准教授)
- ・ e ラーニングによる予習・復習用コンテンツ作成を行っている。(准教授)
- ・ e ラーニングシステムの理解。e ラーニングを利用した授業の設計と制作を行っている。(准教授)
- ・ ICT を利用した充実した授業を行っている。(准教授)
- ・ 予習・復習に e ラーニングを利用して、理解を図っている。(准教授)
- ・ 実験を行う前に、座学講義で学習してきたそれぞれの実験テーマに関連する定理・用語等について説明を行い、講義と実験の関連付けている。(准教授)
- ・ 授業毎にレポート課題を課して、授業時間以外の学習時間を確保するようにしている。(准教授)
- ・ ほぼ毎時間適切な量の課題を与えている。(教授)
- ・ 実験テーマごとに、その実験に関連した項目について検索・情報収集を行うよう課題を与えている。(准教授・助教)
- ・ 講義内容でノートが追いつかないと判断した場合プリント配布にて対応している。また同時に復習の資料となる。(准教授)
- ・ 全員の理解度を確かめながら授業を進めている。(教授・准教授)
- ・ 演習レポートにできるだけ詳細な添削を実施している。(准教授)
- ・ 日本人学生と留学生の混成クラスであったため、留学生向けに一部英語による講義を行った。パワーポイントについては英語標記を行っている。(准教授)
- ・ 異なる分野の学生に対して、講義理解のために必要な関連バックグラウンドを説明し、最低限の知識を事前にあるいは事後に自分で調査獲得できるように事あるごとに、やさしい例題で紹介している。(教授)
- ・ 教育顕彰に関する申し合わせを作成し、教育顕彰を実施している。
- ・ 教育改善勧告に関する申し合わせを作成し、教育改善を実施している。

【電気電子工学科】

- ・ 講義スピードが速いとの声が前年度あり、その改善を心掛けた。(教授)
- ・ 板書のあとの時間を長くとるようにした。(准教授)
- ・ 前回の評価・要望に基づき、複素関数の産業応用についての解説を行うこととした。(講師)
- ・ 字を大きくすることにより見やすくするとともにプリントを配布して、授業内容の周知に努めた。(教授)
- ・ 授業の進み方が早いというアンケート結果をもとに、シラバスを見直しできるだけ理解を助

けるようゆっくりしたペースで進め、説明した後にスライド等をノートにとる時間を設け、今年度は昨年に比べアンケートによると改善された。(准教授)

- ・ レポート課題の解答例をホームページからダウンロードできるようにした。(准教授)
- ・ 前回の評価にもとづき講義に利用する書き込み型の資料を改善した。結果理解度が改善された。(准教授)
- ・ 演習の時間を長くし、学生の理解を深めた。(准教授)
- ・ 授業の進み方が早いというアンケート結果をもとに、シラバスを見直しできるだけ理解を助けるようゆっくりしたペースで進め、説明した後にスライド等をノートにとる時間を設け、今年度は昨年に比べアンケートによると改善された。(准教授)
- ・ 板書を丁寧に行うように心がけた。(准教授)
- ・ 演習の時間を長くし、学生の理解を深めた。(准教授)
- ・ 理解度向上のため、計10回の演習問題のプリントを作成し、レポートとして課した結果、昨年度よりは理解度が向上した。(准教授)
- ・ 最近の話題を分かりやすく説明した。(准教授)
- ・ 理解困難と言う学生が多いので、図を多用して直感的な理解の助けとなるべく努めた。(教授)
- ・ 言葉や板書だけでなく、視覚的に理解してもらうように努めた。(准教授)
- ・ ほぼ毎回、学生に質問し、理解度を把握しながら講義した。(准教授)
- ・ 前年度のアンケート結果を踏まえて、中間報告会の実施、前後半での班構成の変更を行った結果、半期を通して中だるみのない充実した実験を実施することができた。(教授)
- ・ 同一学科所属教員による相互チェックの観点から、授業参観を受け入れた。また、自分でも他の教員の担当する授業を参観し、学科長宛に報告書を提出した。(准教授)

【都市工学科】

教育改善に関する努力として、以下の事項が実践されていると記載がある。

- ・ 講義ノートの作成(邦文や英文)とWeb公開(教授、准教授)
- ・ 演習科目では、レポートのチェック、注意事項の学生への徹底(教授、准教授)
- ・ 受講生に対し講義ごとの質問票やミニテストの配布とチェック(教授、准教授)
- ・ 講義における学生の発言を促す工夫(教授、准教授)
- ・ 再試験の受験者には、事前の自習を要求している。(教授、准教授)
- ・ 学部4年生、大学院生には学外での研究発表を励ましている。(教授、准教授、講師、助教)
- ・ ITツールを使った講義の実践(教授、准教授、助教)
- ・ 学生による授業評価を通じて得られた諸問題に対する教育法の改善(教授、准教授)

3.1.3. 教育研修・FDに関する事項

教育研修・FDについて、理工学部各学科の教員は次の活動を行っている。

【数理科学科】

学科内でのFD活動の他、

- ・ e-learning講習会(准教授)
- ・ 佐賀大学FD・SDフォーラム(教授)

- ・ 理工学部・工学系研究科 FD 企画（教授）

への参加が報告されていた。

【物理科学科】

学科内での恒常的な FD 活動の他、

- ・ 高等教育開発センターFD・SD フォーラム（企画、司会、一般参加）
- ・ 理工学部 FD 企画「LMS 講習会」（企画、司会、一般参加）
- ・ 教養教育運営機構 FD・SD フォーラム（企画、司会、一般参加）
- ・ 物理科学科 e-Learning 講習会（企画、講師、参加）
- ・ 数理科学科 e-Learning 講習会（講師）
- ・ 第 2 回 NIME e ラーニングセミナー（講師、一般参加）

【知能情報システム学科】

学科内での FD 活動の他、以下への参加が報告されていた。

- ・ 東京大学現代 GP 国際シンポジウム 2008「ICT を活用したアクティブラーニング」参加（教授）
- ・ 佐賀大学 FD・SD フォーラム（准教授）
- ・ e-Learning (LMS)講習会（教授、准教授、講師）
- ・ 名古屋工業大学 FD 研究会（准教授）
- ・ 教養教育運営機構 FD 特別講演会（准教授）
- ・ 学科内 FD 報告会参加（教授、准教授、講師、助教）
- ・ GP シーズ事業 産官学連携による高度 IT 人材育成プログラム成果報告シンポジウム（教授、准教授、講師）
- ・ 理工系情報学科・専攻協議会（助教）

【機能物質化学科】

学科内での FD 活動の他、

- ・ 理工学部 FD 報告会（教授、准教授）
- ・ 全国大学化学系教育研究集会（教授）
- ・ JABEE シンポジウム（准教授）
- ・ 教育力向上セミナー（准教授）
- ・ 佐賀大学 FD・SD フォーラム（教授、准教授）

等への参加が報告されていた。

【機械システム工学科】

学科内での FD 活動の他、

- ・ 教養教育運営機構 FD 特別講習会（准教授）
- ・ 第 1 1 回佐賀大学 FD・SD フォーラム（准教授）
- ・ 第 1 2 回佐賀大学 FD・SD フォーラム（准教授）

への参加が報告されていた。

【電気電子工学科】

- ・ 大学電気教員協議会及び大学電気工学教育研究集会（教授、講師）
- ・ JABEE 審査講習会、自主研修会（教授、助教）
- ・ 教養教育機構 FD 講演会（准教授）
- ・ 電気電子工学科教育改善委員会（教授、准教授）
- ・ 電気電子工学科カリキュラム検討委員会（教授、准教授、講師）
- ・ 電気電子工学科 JABEE 委員会（教授、准教授）
- ・ 電気電子工学科学生実験委員会（准教授、講師、助教）
- ・ 科学研究費助成金に関する文部科学省（磯谷桂介氏）講演会（准教授）

【都市工学科】

学科内での FD 活動の他、

- ・ 理工学部 FD 報告会（教授、准教授）
- ・ 情報処理教育の現状（教授）
- ・ e-Learning と LMS の紹介、実践例、利用法の説明

3.1.4. オフィスアワーの設置と学生相談に関する事項

オフィスアワーの設置状況と学生相談の内容について、理工学部各学科の教員は次の活動を行っている。

【数理科学科】

- ・ 相談内容は学修、生活相談、進路に関するものが多い。（教授）

【物理科学科】

- ・ 学科では卒業研究着手までの担任制を4年前から始めており、健康上の理由のために担当できない教員以外は、全員、3ないし4名の学生の担任の役割を果たしており、毎年度初めに面談を実施している。（教授、准教授全員）
- ・ 特に問題のある学生については、教室会議で取り上げ情報交換し、可能な限りの対策を議論している。
- ・ 大学院生については、指導教員が担任の役割を果たしている。

【知能情報システム学科】

- ・ オフィスアワーにも対応があったが、それ以外の訪問、電子メールによって対応している方が多数であった。（教授、准教授、講師、助教）
- ・ 相談の多くは学修上の相談である。他に、生活、進路その他の相談があった。（教授、准教授、講師、助教）

【機能物質化学科】

- ・ 相談内容は、授業内容に関する質問や成績に関するものが多い。（教授、准教授、助教）
- ・ 平成15年度の入学者から、各教員に平均4名の学生を対象としてチューターを指定し、学修相談や生活相談に応じている。特に、履修上問題のある学生についてはチューターが呼び出して事情を聴き、アドバイスするようにしている。（教授、准教授、助教）

【機械システム工学科】

オフィスアワーは、前学期・後学期に全教員に固定された時限に設定されている。ただし、授業等の関連で困難な教員は別途時限を設定するようにしている。相談は学修相談（318回）、生活相談（48回）、進路相談（315回）その他（1回）で、学習・進路（就職）に関するものが多い。学修相談および進路相談は就職担当教員（教授）が大部分を占めている。また、教務委員（准教授）への相談もやや多い。学科内の担任制度により各教員が定期的に面談を行っているため、そのさいの面談も含まれている。

【電気電子工学科】

オフィスアワーの設置と学生の相談については、全教員が対応している。

- ・ 相談内容の内訳は学修相談 1046 件、生活相談 94 件、進路相談 493 件、その他 14 件となっており、大半は一般学生である。
- ・ オフィスアワーを活用した面談は 176 件と少なく、大半はオフィスアワー以外での面談であるが、電子メールによる対応も 82 件ある。

【都市工学科】

相談内容は宿題の解き方、講義内容に関する質問、最終試験の範囲などに関するものが多い。

3.1.5. 学生の受賞等

【知能情報システム学科】

- ・ 情報処理学会九州支部奨励賞（指導教員：准教授）
- ・ 情報処理学会九州支部奨励賞（指導教員：教授）

【機能物質化学科】

- ・ 日本農芸化学会西日本支部ポスター賞（指導教員：准教授）
- ・ 第 16 回廃棄物学会研究発表会における最優秀ポスター賞（指導教員：准教授）
- ・ 9th EARTH における最優秀ポスター賞（指導教員：教授）
- ・ 4th ICIE における最優秀ポスター賞（指導教員：教授）

【機械システム工学科】

- ・ 第 3 回冷凍空調アジア会議 Best Presentation Award（指導教員：教授）
- ・ 日本冷凍空調学会 優秀講演賞（指導教員：教授）
- ・ ライフサポート学会 奨励賞（指導教員：助教）
- ・ 日本航空宇宙学会西部支部 優秀学生講演賞（指導教員：教授）

【電気電子工学科】

- ・ 映像情報メディア学会放送技術研究会学生発表部門 最優秀賞受賞（指導教員：講師）
- ・ 電子情報通信学会九州支部学術奨励賞（指導教員：准教授）
- ・ 電子情報通信学会九州支部学生会講演奨励賞（指導教員：准教授）
- ・ 電子情報通信学会九州支部学生会講演奨励賞（指導教員：准教授）
- ・ 電子情報通信学会情報・システムソサイエティ優秀ポスター賞（指導教員：准教授）
- ・ 電気学会九州支部講演奨励賞（指導教員：講師）
- ・ 日本オゾン協会論文奨励賞（指導教員：教授）

【都市工学科】

- ・ 平成 19 年度土木学会西部支部研究発表会優秀講演賞 2 名（指導教員：教授、准教授）
- ・ 2007 年度日本コンクリート工学協会九州支部長賞 2 名（指導教員：教授、准教授）
- ・ 都市住宅学会九州支部 2007 年度優秀学生賞（指導教員：教授）
- ・ 第 20 回 建築環境デザインコンペティション ～建築と設備のトータルな調和を求めて～
選外佳作（指導教員：教授）
- ・ 平成 19 年度地盤工学会九州支部優良学生賞 2 名（指導教員：教授、講師）
- ・ 日本都市計画学会九州支部平成 19 年度支部長賞（指導教員：教授）
- ・ 日本建築学会九州支部平成 19 年度支部長賞（指導教員：教授）

【佐賀大学学長賞】

【生体機能システム制御工学専攻：博士後期課程】

- ・ 日本冷凍空調学会年次大会優秀講演賞（指導教員：教授）

【機械システム工学専攻】

- ・ 日本機械学会第 12 回動力・エネルギー技術シンポジウム日本機械学会フェロー賞（若手
優秀講演）（指導教員：准教授）

3.2. 研究の領域

3.2.1. 著書、論文等の発表実績

過去4年間（H16.4.1～H20.3.31）*の発著書、論文等の発表実績を表3.2に示す。

*平成19年度集計に限り、集計期間を4年とした。

表3.2 過去4年間（H16.4.1～H20.3.31）の発著書、論文等の発表実績

学 科	職 種	著 書	論文総数		和文原著		英文原著	
				査読 付		査読 付		査読 付
数理科学科	教 授	0-2	2-18	2-18	0-1	0-1	2-17	2-17
	准教授	0	2-5	2-5	0	0	2-5	2-5
物理科学科	教 授	0	2-31	2-31	0-1	0-1	2-31	2-31
	准教授	0	0-20	0-20	0	0	0-20	0-20
知能情報 システム学科	教 授	0-4	1-46	1-46	0-16	0-16	0-30	0-30
	准教授 (講師含)	0-6	2-18	0-18	0-5	0-5	0-13	0-13
	助 教	0	0-5	0-5	0-1	0-1	0-4	0-4
機能物質化学科	教 授	0-5	9-63	8-54	0-8	0-8	9-55	8-46
	准教授	0-3	3-38	3-38	0-10	0-10	3-32	3-32
	助 教	0-2	2-30	1-26	0-9	0-5	1-21	1-21
機械システム 工学科	教 授	0-9	10-155	5-152	2-36	0-36	1-152	1-152
	准教授	0-5	3-125	3-125	0-18	0-7	0-124	0-124
	助 教	0	3-25	3-25	2-5	2-5	0-23	0-23
電気電子工学科	教 授	0-5	14-66	12-38	0-29	0-13	4-48	4-38
	准教授	0-2	0-50	0-21	0-17	0-10	0-29	0-16
	助 教	0	7-17	6-16	3-6	3-4	4-12	3-12
都市工学科	教 授	0-2	1-30	1-30	0-15	0-15	0-29	0-29
	准教授	0-5	0-25	0-25	3-7	3-7	0-14	0-14
	助 教	0	12-14	12-14	3-7	3-7	7-9	7-9

表中、例えば、(0-2)は実績の（最小数－最大数）を表す。

【数理科学科】本表より、概ね良好な研究活動が行われていることが窺い知れる。

【物理科学科】本表における「原著論文」とは全て学術論文に掲載された査読付きの論文であり、解説等は対象外としている。掲載された論文誌の殆ど全てが英文の著名な国際的学術誌であり、研究の質は高いと言える。

また新任の教員は着任以後の業績のみを記載している。

研究分野により論文の多少に差があり、一部の教員を除いて、研究領域の目標は達成されてい

る。

【知能情報システム学科】本表において、業績が少ない教員が見られる。特に助教の研究活動への支援強化が課題である。

【機能物質化学科】本表より、概ね良好な研究活動が行われていることが窺い知れる。

【機械システム工学科】本表より、概ね良好な研究活動が行われていることが窺い知れる。

【電気電子工学科】本表より、概ね良好な研究活動が行われていることが窺い知れる。

【都市工学科】本表において原著論文数のばらつきが大きいことから、今後一層の研究活動が望まれる。

3.2.2. 共同研究などに関する活動実績

【数理科学科】

- ・ 韓国および中国でのセミナーおよび国際研究集会での特別講演（教授）
- ・ ドイツおよびフランスの国際研究集会での特別講演(教授)
- ・ イスラマバード、韓国、モロッコおよびパキスタンの国際研究集会での特別講演（教授）
- ・ チェコ、ブルガリアおよび韓国の国際研究集会での特別講演(教授)
- ・ 学術振興会日韓共同研究による共同研究、韓国および中国の国際研究集会での招待講演(教授)
- ・ アメリカの国際研究集会での特別講演、スランスのセミナーでの特別講演(准教授)
- ・ アメリカのセミナーおよび国際研究集会での特別講演、韓国の国際研究集会での特別講演(准教授)

【物理科学科】

- ・ 高エネルギー物理学研究所(Belle)との共同研究（教授、准教授）
- ・ 高エネルギー物理学研究所(E391a)との共同研究（准教授）
- ・ 高エネルギー物理学研究所と大阪市立大との共同研究（准教授）
- ・ 高エネルギー物理学研究所と筑波大との共同研究（准教授）
- ・ 東北大学金属材料研究所との共同研究（准教授）
- ・ 北陸先端科学技術大学院大学との共同研究（准教授）
- ・ 九州大学との共同研究（教授、准教授）

【知能情報システム学科】

- ・ 共同研究(独)産業技術総合研究所：ASTER/VNIR、SWIR の代替校正(教授)
- ・ 共同研究(独)産業技術総合研究所：衛星データによる農林水資産資源管理に関する事業化研究（教授）
- ・ 受託研究(社)九州経済連合会：宇宙利用プロジェクト（教授）
- ・ 受託研究(独)国際協力機構国別特設：インドネシア e-learning 研修（教授）
- ・ 受託研究(独)国際協力機構：スラバヤ工科大学高度人材育成（教授）
- ・ 共同研究(株)iDC：Moodle を用いたシステム管理（教授）
- ・ 学長裁量経費・GP シーズ事業：産官学連携による高度 IT 人材育成プログラム（准教授）
- ・ 佐賀大学文化教育学部、医学部、総合情報基盤センターとの共同研究：国立大学における e ラ

ーニングシステムの構築と実践(教授、准教授)

- ・ 県内および学内との共同研究：ユビキタス社会を創造する先導的人材育成の為に新しい情報教育の提案と実践（教授）
- ・ 佐賀大学総合情報基盤センターとの共同研究：ネットワーク利用者認証システムの開発（教授）
- ・ 佐賀大学総合情報基盤センターとの共同研究：大規模分散ネットワーク環境における教育用計算機システム（教授）
- ・ 工業高校との共同研究：体験・観察学習のためのユビキタス植生ハウスの開発～高校生と共に取り組むものづくり研究～（教授）
- ・ 県内および学内との共同研究：棚田オンラインプロジェクト（教授）
- ・ 共同研究（独）産業総合研究所：ユビキタスエコーにおける組織自動判別アルゴリズムの改良（准教授）
- ・ 共同研究（株）S T Sメディアレップ：ワンセグ放送とストリーミング技術の連動に関する研究（教授）

【機能物質化学科】

- ・ 共同研究及び受託研究の受入れ件数：25件
産業技術研究助成事業費助成金（助教）（外部資金13,130千円）
- ・ リチウムイオンキャパシタの実用性向上に向けた共同研究（准教授）（外部資金3,150千円）
- ・ 平成19年度佐賀県先導的研究開発支援事業（准教授）（外部資金1,300千円）
- ・ H19年度原子力システム研究開発事業若手対象型研究開発核燃料サイクル技術（准教授）（外部資金6,380千円）・ H19 三菱化学株式会社共同研究（准教授）（外部資金1,100千円）
- ・ 新規発光材料の開発に関する共同研究（教授）（外部資金1,000千円）他19件
受入れ資金の合計：74,070千円

【機械システム工学科】

- ・ 極低浮上磁気ヘッドに関する理論的研究（准教授）
- ・ 多軸精密制御による次世代型プレス機及び金型の研究開発（教授）
- ・ 企業在職者向けの自動車産業人材育成プログラム（教授）
- ・ ファジィコーチ・プレイヤーシステムによる音声指示ロボット鉗子システムの開発（教授）
- ・ 上肢運動支援用知的外骨格型ロボットシステムの研究（教授）
- ・ 熱延 ROT 冷却解析技術構築（准教授）
- ・ 宇宙用グリースと基油の潤滑性能評価法の確立（教授）
- ・ 車いす駆動における運動機能評価と適合支援システムに関する研究（助教）
- ・ 車いす適合シミュレータの開発（助教）
- ・ 個々人の身体運動機能に基づく新しい車いす適合評価システムの開発（助教）
- ・ 車いすの適合評価に関する研究－適合評価システムの開発－（助教）
- ・ 車いすの適合評価に関する研究－移乗、姿勢、移動、機能と環境から見た適合評価－（助教）
- ・ 車いす走行環境評価のための走行時の生理学的・力学的計測（助教）

- ・ ヘリコプター用軽量ギヤボックスの研究 (教授)

【電気電子工学科】

- ・ 佐賀県工業技術センターとの共同研究 (教授)
- ・ 核融合研研究所との共同研究 (教授)
- ・ 東北大学との共同研究
- ・ 宇宙科学研究本部との共同研究 (講師)
- ・ 電装研との共同研究 (講師)
- ・ 大阪大学接合科学研究所との共同研究 (講師)
- ・ 国立極地研究所との共同研究 (講師)
- ・ 企業との共同研究 12 件 (教授、准教授、講師)
- ・ 東北大学電気通信研究所共同プロジェクト研究「知的ナノ集積システムの実現に関する研究」(准教授)
- ・ インテグレイテッド・エレクトロニクス教育研究プロジェクト (佐賀大学ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー) (教授、准教授、助教)
- ・ 連携融合事業 (佐賀大学シンクロトン光応用研究センター) (教授)
- ・ 企業への情報提供 (教授、准教授、講師)
- ・ 企業等への研究指導 (教授、准教授、講師)
- ・ その他

【都市工学科】

- ・ オーストラリア New Castle 大学との共同研究 (教授)
- ・ 有明海総合プロジェクト (教授、准教授)
- ・ 学内 COE : 廃棄物の資源化に関する研究 (教授、助教)

3.2.3. 受賞等の実績

【数理科学科】

- ・ 中国科学院数学与系統科学研究院より突出科研成果賞 (教授)

【知能情報システム学科】

- ・ 情報通信研究機構より JGN2 アワード(地域貢献・人材育成賞)「工業系高等学校における IPv6 を用いたユビキタス社会実験研究 (教授)
- ・ 情報通信研究機構より JGN2 アワード(地域貢献・人材育成賞)「JB プロジェクト」(教授)
- ・ 情報通信研究機構より JGN2 アワード(国際連携賞)「超高速インターネットを利用した次世代国際共同研究」(教授)
- ・ 総務省より u-Japan ベストプラクティス 2007 事例集収録「遠隔環境情報収集システム」(教授)

【機能物質化学科】

- ・ The 2nd Asian Symposium on Emulsion Polymerization and Functional Polymeric Microspheres ポスター賞 (助教)

【機械システム工学科】

- 日本伝熱学会 伝熱学会学術賞（教授、准教授）
- （社）軽金属学会 優秀ポスター発表賞（助教）
- Best Invited Paper Award The International Conference on Control, Instrumentation and Mechatronics Engineering, 2007 (CIM '07, Johor Bahru, Malaysia)（教授、准教授）
- Best Paper Nominee Award International Conference on Intelligent Unmanned Systems (ICIUS2007, Bali, Indonesia)（教授、准教授）

【電気電子工学科】

- 応用物理学会九州支部貢献賞（教授）
- エレクトロニクス実装学会「論文賞」（准教授）
- 財団法人エンジニアリング振興協会「エンジニアリング功労者賞」（教授）

【都市工学科】

- 2006年国際ジオシンセティックス学会 2nd ベスト論文賞（教授）
- 2005、2006年国際シンポジウムベスト論文賞（教授）
- 2006 土木学会優秀発表賞(助教)

3.3. 国際・社会貢献の領域

3.3.1. 国際交流実績

【数理科学科】

- ・ 中国からの訪問研究者の受け入れ（教授）
- ・ 中国の大学および国際研究集会での招待講演（教授）
- ・ パキスタンと韓国からの訪問研究者の受け入れ(教授)
- ・ パキスタンの大学を訪問および国際研究集会で特別講演（教授）
- ・ 韓国からの訪問研究者の受け入れ(教授)
- ・ チェコの国際研究集会で特別講演（教授）

【物理科学科】

- ・ 理工学部国際パートナーシップ講師（教授、准教授）
- ・ 上記2(2)の Belle、E391a 等の国際共同実験プロジェクト（教授）
- ・ TRIUMF (Canada) の中間子施設での国際共同実験（教授）
- ・ 日中拠点大学交流事業による共同研究打ち合わせ（准教授）
- ・ 科研費を利用した国際会議での講演（准教授）
- ・ 特別教育研究経費(拠点形成)による国際会議の組織運営と発表（准教授）
- ・ Faslane 365 に参加し、英国の核兵器廃絶をアピール（教授）

【知能情報システム学科】

- ・ 受託研究(独)国際協力機構国別特設：インドネシア e-learning 研修（教授）
- ・ 受託研究(独)国際協力機構：スラバヤ工科大学高度人材育成（教授）

【機能物質化学科】

- ・ 外国人研究者の訪問と講演会開催（教授）
- ・ 国際会議にて研究交流（教授、准教授）
- ・ 韓国大邱大学訪問と研究交流（教授）
- ・ 第1回佐賀大学・大邱大学校ジョイントセミナー開催（教授）
- ・ 中国西北大学訪問と大学院生を対象としたジョイントセミナー（准教授）
- ・ 英国イーストアングレア大学訪問と研究交流
- ・ 韓国釜山の高神大学との学術交流協定締結（准教授）

【機械システム工学科】

- ・ 海外からの研究者の受け入れ（5件）（教授、准教授）
- ・ 国際協力派遣（2件）（教授）
- ・ 国際会議における発表等（33件）（教授、准教授、助教）

【電気電子工学科】

- ・ 国際会議の参加、発表（教授、准教授、講師、助教）
- ・ 理工学部国際パートナーシップ（教授、准教授、講師）
- ・ 外国大学との交流セミナー・共同研究（教授、准教授）

- ・ その他

【都市工学科】

- ・ 理工学部国際パートナーシップ講師（教授）
- ・ 日・タイ院生との教育研究交流（教授）
- ・ 海外からの研究者の受け入れ（教授）

3.3.2. 社会貢献実績

【数理科学科】

- ・ 研究集会世話人（准教授）
- ・ 国際研究集会主催者（教授）
- ・ 日中友好研究集会組織員（教授）
- ・ ジョイントセミナー（教授、准教授）
- ・ 大学入試説明会講師（教授）
- ・ スーパーサイエンスハイスクール講師（准教授）

【物理科学科】

- ・ 日本物理学会代議員（教授）
- ・ 科学基礎論学会学会賞選考委員（教授）
- ・ 佐賀県スーパーサイエンスハイスクール運営指導委員会委員（教授）
- ・ 先端基礎科学次世代加速器研究会委員（准教授）
- ・ 高エネルギー加速器研究機構放射線安全審議委員会安全審議委員会委員（教授）
- ・ Defect and Diffusion Forum 論文誌 Editorial Advisory Board（教授）
- ・ ジョイントセミナー（教授、准教授）

【知能情報システム学科】

- ・ 電気関係学会九州支部連合会役員（准教授）
- ・ （社）日本リモートセンシング学会情報委員会委員（准教授）
- ・ （社）日本リモートセンシング学会国際委員会委員（准教授）
- ・ 日本リモートセンシング学会広報委員（助教）
- ・ 情報処理学会論文誌「安心・安全な社会基盤を実現するコンピュータセキュリティ技術」特集号編集委員会委員（教授）
- ・ 情報処理学会情報処理学会分散システム/インターネット運用技術研究会運営委員（教授）
- ・ IEEE Fukuoka Section Professional Activities Committee Chair（教授）
- ・ 電子情報通信学会九州支部評議員（教授）
- ・ 電子情報通信学会専門講習会「情報セキュリティ最前線」開催担当（教授）
- ・ The seminar、Higher education training on developing education contents for mobile learning for Indonesia、-e-learning seminar 2007-、JICA supported E-learning seminar for Indonesia in Saga University 講師（教授）
- ・ JICA supported E-learning seminar for Indonesia in Saga University 講師（教授）

- ・ JICA supported E-learning seminar for Indonesia in Saga University 講師 (教授)
- ・ ITS teleconferencing presentation 講師 (教授)
- ・ JICA/ITS Certificate Award by Project Management of PREDICT Project/ITS 講師 (教授)
- ・ 「佐賀から始まる豊かなネットワーク社会の未来」マイクロソフト IT キャラバンポスタープレゼンテーション 講師 (教授)
- ・ 日本 ALS 境界福岡支部主催第 12 回総会、講演会 講師 (教授)
- ・ 長崎コミュニケーションエイド研究会主催講演会 講師 (教授)
- ・ 第 14 回福岡 ALS ケア研究会 講師 (教授)
- ・ 地域産業支援センター講演会 講師 (教授)
- ・ JABEE 審査員研修会および技術者教育セミナー (情報および情報関連分野) 講師 (准教授)
- ・ 南山大学 数理情報学部 FD 講演会 講師 (准教授)
- ・ ジョイントセミナー 講師 (教授、准教授、講師)
- ・ 九州航空宇宙開発推進協議会主催講演会 講師 (教授)
- ・ リモートセンシングシンポジウム 講師 (教授)
- ・ 平成 19 年度専攻科機電系サマーレクチャー 講師 (教授)
- ・ 高度 IT 人材育成フォーラム 講師 (准教授)
- ・ 先端 IT 講演会 主催者 (准教授)
- ・ ソフトウェアジャパン 2008 高度 IT 人材育成セッション 主催者 (准教授)
- ・ 産官学連携による高度 IT 人材育成プログラム (学長裁量経費・GP シーズ事業成果報告シンポジウム) 主催者 (准教授)
- ・ 九州における宇宙利用を語ろう会 講師 (助教)
- ・ 高性能ハイパースペクトルセンサ等研究開発に関する調査委員会 委員 (教授)
- ・ 「佐賀市 e-むらづくり計画」策定委員会 委員長 (教授)
- ・ 衛星データ利用委員会 (委員 (教授))
- ・ 佐賀県住民基本台帳ネットワークシステム本人確認情報保護審議会 副委員長 (教授)
- ・ 番組審議会 委員長 (教授)
- ・ 九州総合通信局情報通信部次世代高度ネットワーク九州地区推進協議会 推進部会長 (教授)
- ・ 佐賀県先進 IT 技術有限責任事業組合 顧問 (准教授)
- ・ 佐賀大学ビジネスコミュニティネットワーク 講演 (教授)
- ・ NPO 法人鳳雛塾 副理事長 (教授)
- ・ 日本宇宙少年団武雄分団 分団長 (教授)
- ・ NPO 法人シニアネット佐賀 理事 (教授)
- ・ (社)九州経済連合会九州航空宇宙開発推進協議会、宇宙利用プロジェクト創出研究会・宇宙利用グループ リーダ (教授)
- ・ 独立行政法人情報処理推進機構 高度 IT 人材育成に係る実態調査 レビューア (准教授)
- ・ 日本技術者教育認定機構 JABEE 基準委員会委員 (准教授)
- ・ 独立行政法人大学入試センター教科科目第二委員会委員 (教授)

- ・ 学会誌論文査読（教授、准教授、講師）

【機能物質化学科】

- ・ 学会論文査読委員（教授、准教授）
- ・ 学会研究会幹事（教授、准教授）
- ・ 佐賀県主催の協議会等の幹事、運営委員など（教授、准教授）
- ・ 佐賀県理科・化学教育協議会（教授、准教授）
- ・ さが科学少年団 副団長（准教授）
- ・ 佐賀市適応指導教室「くすの実」講師（教授、准教授）
- ・ 佐賀ハイテク研究会 会長（教授）
- ・ ジョイントセミナー（教授、准教授）
- ・ 学会研究会研修会開催の実行委員、運営委員など（准教授）
- ・ 青少年のための科学の祭典全国大会講師（教授、准教授）
- ・ 共同研究訪問研究員指導（准教授）
- ・ 日本技術者教育認定機構 技術者教育プログラム認定・審査のための審査員（准教授）

【機械システム工学科】

- ・ 学会理事（教授）
- ・ 学会評議員（教授）
- ・ 学会校閲委員、編集委員、運営委員など（教授、准教授）
- ・ 学会九州支部理事、評議員、商議員、常議員など（教授）
- ・ 研究会会長、幹事など（教授）
- ・ 学会開催の実行委員、運営委員など（教授、准教授、助教）
- ・ ジョイントセミナー（10件）（教授、准教授）

【電気電子工学科】

- ・ 学協会本部・支部各種役員（教授、准教授）
- ・ 学会論文委員、査読委員（教授、准教授、講師）
- ・ 諸団体・研究機構アドバイザー、評価委員（教授）
- ・ 学会各種委員会、研究会、専門委員会、委員長・幹事、オーガナイザー（教授、准教授、講師）
- ・ 佐賀県関連の協議会等の幹事、各種委員など（教授、准教授）
- ・ 学会開催の各種委員長、委員など（教授、准教授）
- ・ ジョイントセミナー講師（教授、准教授、講師、助教）
- ・ サイエンスパートナーシッププログラム（准教授）
- ・ リフレッシュ理科教室（教授、准教授、助教）
- ・ 人工知能工学シンポジウム（准教授）
- ・ 出前授業（助教、教授）
- ・ 青少年のための科学の祭典（助教）
- ・ 公開講座「パレート型学習を行う自己組織化マップとそのセキュリティ分野への応用」（准教

授)

- ・ 公開講座「大学等開放推進事業一宇宙を学ぶ」(講師)
- ・ 研修会「理科実験研修」(准教授)
- ・ 研修会「電波研連C分科会公開研究会」(講師)
- ・ 研修会「技術情報協会セミナー」(准教授)
- ・ 研修会「JST 新技術説明会」(教授)
- ・ 研修会「IT 高度ソフトウェア教室」(准教授)
- ・ 研修会「エレクトロニクスものづくり体験教室」(准教授)
- ・ 研修会「Linux インストールセミナー」(教授)
- ・ 研修会「理科実験研修」(准教授)
- ・ その他

【都市工学科】

- ・ 学会論文査読委員 (教授、准教授)
- ・ 学会論文誌編集委員 (教授、准教授)
- ・ 学会研究会理事、幹事 (教授)
- ・ 佐賀県主催の協議会等の幹事、運営委員など (教授、准教授)
- ・ 地方自治体の技術検討委員会委員長、委員 (教授、准教授)
- ・ 地方団体主催の講習会、研修会の講師 (教授、准教授)
- ・ 学会開催の実行委員、運営委員など (教授、准教授、助教)

3.4. 組織運営の領域

【数理科学科】

- ・ 理工学部各種委員の担当（全教員）
- ・ 省エネ、省資源などの活動に積極的に参加（准教授、助教）

【物理科学科】

- ・ 全学各種委員会委員（教授）
- ・ 理事補佐（教授）
- ・ 高等教育開発センター・センター長（教授）
- ・ 教養教育運営機構・副機構長（教授）
- ・ 理工学部・工学系研究科各種委員の担当（全教員）
- ・ 理工学部・工学系研究科 FD 委員長（教授）
- ・ 理工学部学部長補佐（教授）
- ・ 工学系研究科エネルギー物質科学専攻物質科学大講座主任（教授）
- ・ 工学系研究科エネルギー物質科学専攻物質科学大講座副主任（教授）
- ・ 学科内各種委員の担当（全教員）
- ・ 物理科学科学科長・物理科学専攻主任（教授）
- ・ 省エネ、省資源などの活動に積極的に参加（全教員）

【知能情報システム学科】

- ・ 全学委員、理工学部各種委員の担当（全教員）
- ・ 研究室システムの管理・運營業務（助教）
- ・ 高等教育開発センター併任として業務遂行（准教授）
- ・ 総合情報基盤センター副センター長として業務遂行（教授）
- ・ 入試問題の出題・採点（准教授）
- ・ 知能情報システム学科計算機運用委員会（教授、准教授、助教）

【機能物質化学科】

- ・ 理工学部各種委員の担当（全教員）
- ・ 学科各種委員会委員の担当（全教員）
- ・ 高等学校への出前講義（教授、准教授）
- ・ 省エネ、省資源などの活動に積極的に参加（全教員）

【機械システム工学科】

- ・ 理工学部各種委員の担当（全教員）
- ・ 省エネ、省資源などの活動に積極的に参加（全教員）
- ・ 美化デーなどの活動に積極的に参加（全教員）

【電気電子工学科】

- ・ 全学または理工学部、学科内の各種委員となって貢献している。（全教員）
- ・ 省エネ、省資源などの活動にも積極的に参加している。（全教員）

【都市工学科】

- ・ 理工学部各種委員の担当（全教員）
- ・ 省エネ、省資源などの活動に積極的に参加（准教授、助教）

4. 教員の総合的活動状況評価の集計・分析と自己点検評価

4.1. 各領域における自己点検評価点ならびに達成度

教員の総合的活動状況として、教員個人から自己点検された評価の各領域における評価点ならびに達成度の最小値と最大値をそれぞれの学科の教授、准教授、講師、助教について整理したものが下記の表 4.1 である。

表 4.1 教員自身による自己点検評価（評価点ならびに達成率）

学 科	職 種	教育の領域		研究の領域		国際貢献・社会貢献の領域		組織運営の領域		総合評価
		評価点	達成率	評価点	達成率	評価点	達成率	評価点	達成率	
数理科学科	教 授	3-5	60-95	3-5	70-100	2-5	50-95	2-5	33-95	3-5
	准教授	3-5	70-90	2-5	40-100	1-4	10-80	3-4	70-80	2-4
物理科学科	教 授	3-4	40-90	2-5	30-100	2-4	30-85	2-5	70-100	2-4
	准教授	2-5	60-90	2-5	60-95	2-4	55-80	2-4	60-90	2-4
知能情報システム学科	教 授	4-5	95-100	4-5	75-100	3-5	50-100	4-5	70-100	4-5
	准教授 講師含	4-5	80-100	3-4	50-90	3-5	50-100	4-5	80-100	2-4
	助 教	3-5	80-95	3-5	50-100	3-4	10-80	3-5	80-100	3-4
機能物質化学科	教 授	2-4	40-100	2-5	40-100	1-4	30-90	3-5	50-100	2-4
	准教授	3-4	70-100	2-5	50-100	2-5	30-100	3-5	60-100	2-5
	助 教	3	70-90	3-4	60-90	2-3	60-80	3-4	70-90	2-3
機械システム工学科	教 授	3-5	70-95	3-5	60-95	3-4	70-95	4	70-90	3-4
	准教授	4	80-90	2-4	45-90	3-4	60-95	3-5	70-100	2-4
	助 教	3-5	60-90	2-5	50-100	3-5	50-100	3-4	70-90	2-4
電気電子工学科	教 授	3-5	60-90	4-5	80-100	4-5	80-100	3-5	60-100	3-4
	准教授	3-5	52-100	1-5	10-100	1-5	5-100	2-5	20-100	1-5
	助 教	3-4	75-80	4	70-90	3-4	60-80	3-4	60-90	3-4
都市工学科	教 授	3-4	70-90	3-5	70-100	2-5	60-95	3-5	60-90	3-4
	准教授	3-4	60-90	2-4	60-90	2-5	60-90	3-4	60-90	3-4
	助 教	3-4	80-85	3-4	70	3	75-80	3	60-80	3

表中、例えば、(3-4)は評価点、達成率の（最小数－最大数）を表す。

教員各自が評価した総合評価点ならびに達成率の一覧を表 4.1 に示す。

【数理科学科】

この表から、各教員は的確な自己評価を行っていると思われる。

【物理科学科】

各教員は、概ね妥当な自己評価を行っていると思われる。4.2 のヒストグラムから、教授は教育、組織運営の自己評価がやや高く、准教授は研究の自己評価がやや高くなることは、現状を鑑みるに妥当であると言える。また、この表からは分からないが、数値的指標のある研究分野以外では、個々人の評価の自己評価の基準に偏差があり、自己評価がやや厳しいのではないと思われる事例もあった。

【知能情報システム学科】

この表から、総合評価に過度に低い自己評価点を付けている教員がいるが、その他は妥当な自己評価を行っていると思われる。

【機能物質化学科】

この表から、各教員はそれぞれの職分を考慮した適格な自己評価を行っていると思われる。

【機械システム工学科】

各領域について、各教員はほぼ 3 以上の評価点をつけ、達成率もほぼ 60%以上となっている。個人的な評価のレベルがあるために少しのバラツキもあるが、各教員はそれぞれの職分を考慮した適格な自己評価を行っている。

【電気電子工学科】

この表から、平均的には各教員は概ねそれぞれの職分を考慮した適格な自己評価を行っていると思われる。しかしながら、自己評価には個々の評価基準のばらつきが大きく、何らかのガイドラインの設定が必要である。

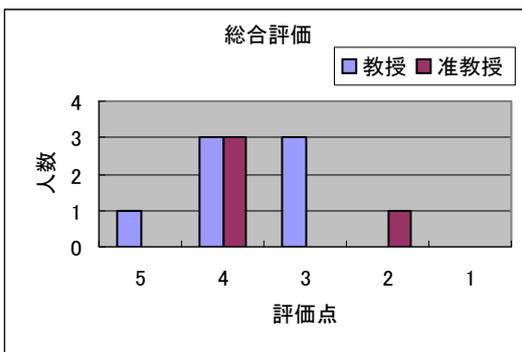
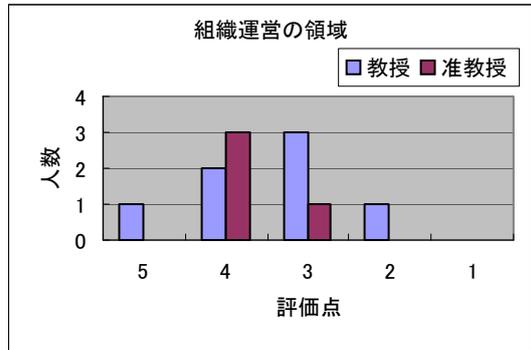
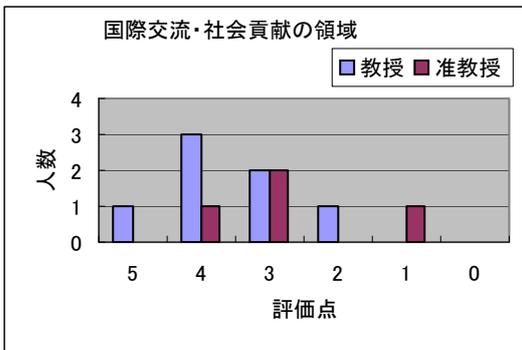
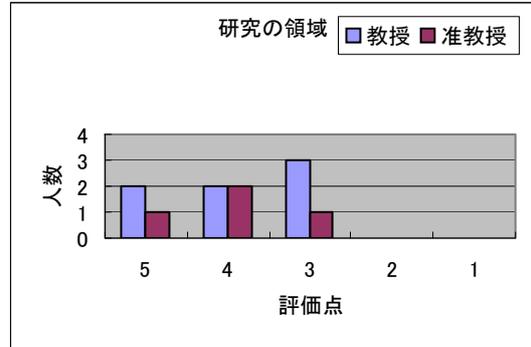
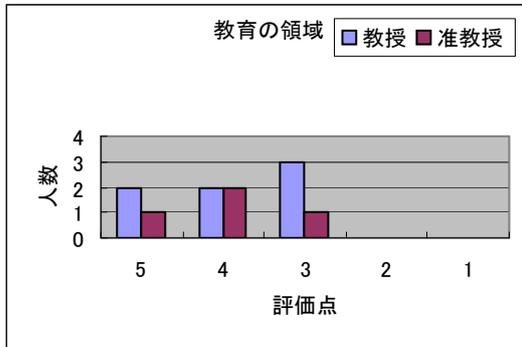
【都市工学科】

この表から、各教員は妥当な自己評価を行っていると思われる。

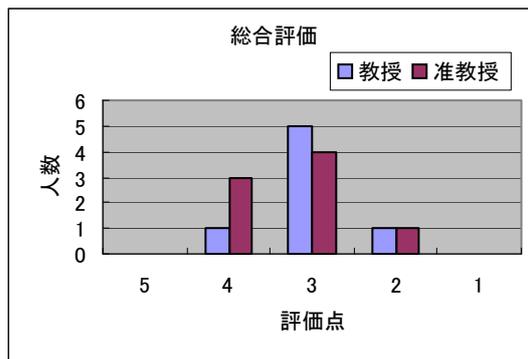
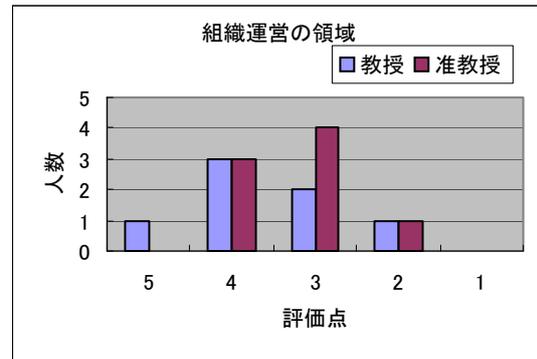
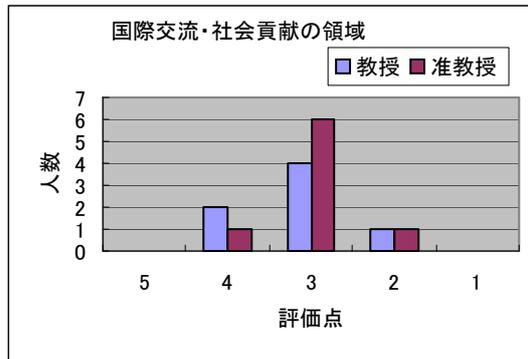
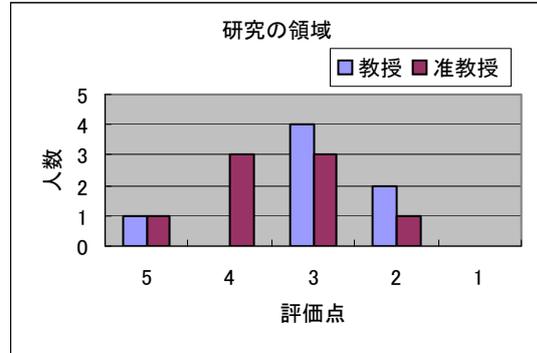
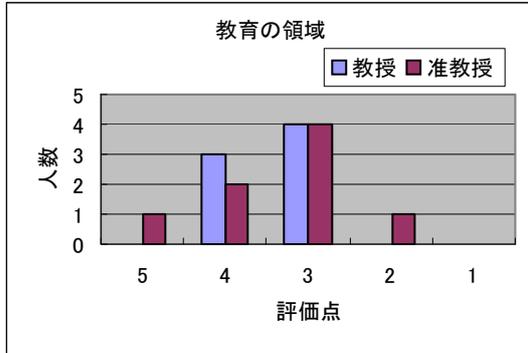
4.2. 評価領域に関する自己点検評価点のヒストグラム

次ページから、学科毎に各教員が自己点検した評価領域に関する評価点のヒストグラムを示す。なお、准教授数には講師を含む。

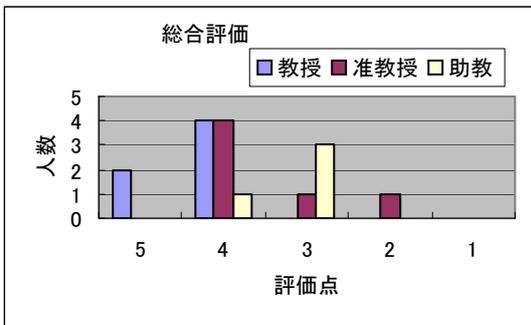
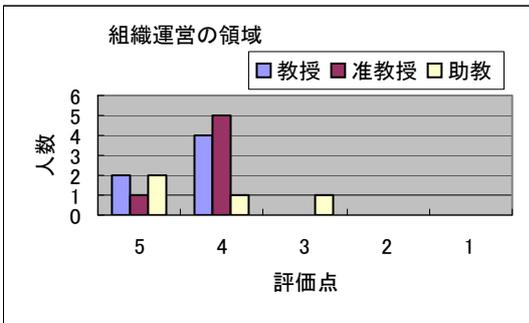
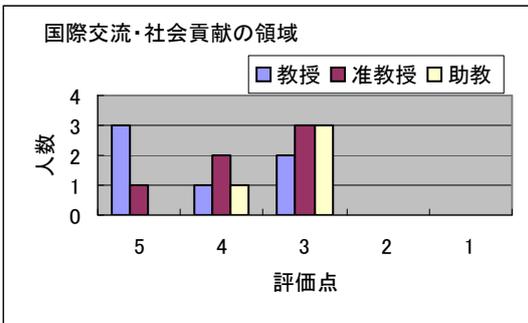
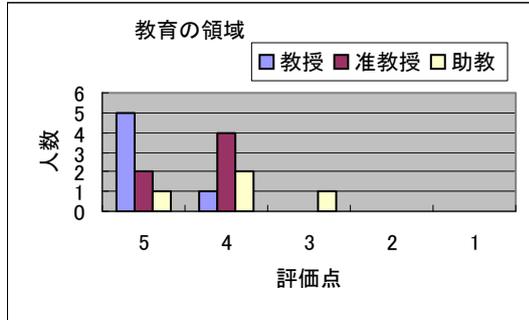
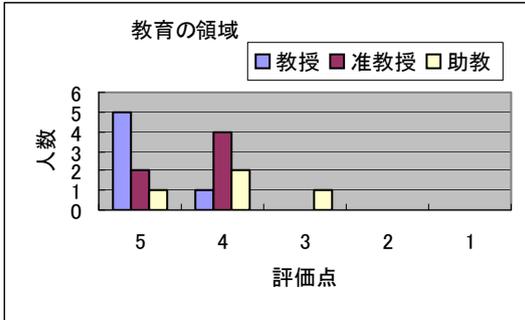
【数理科学科】



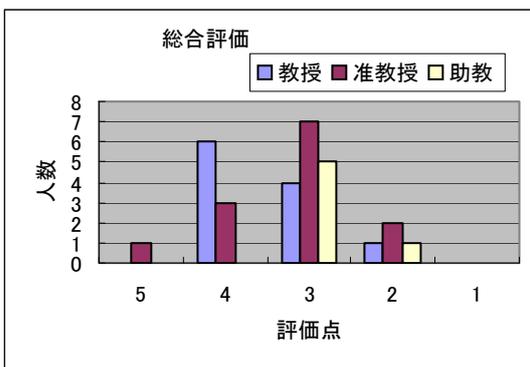
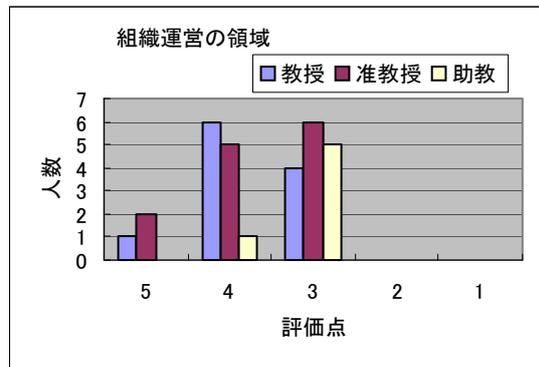
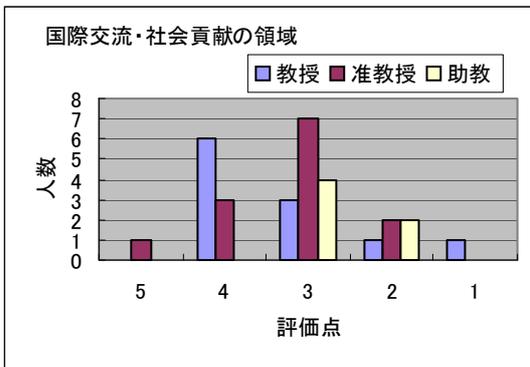
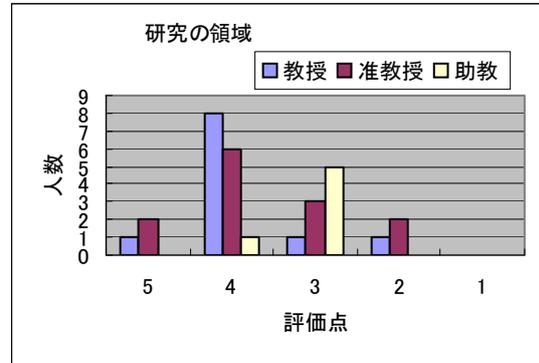
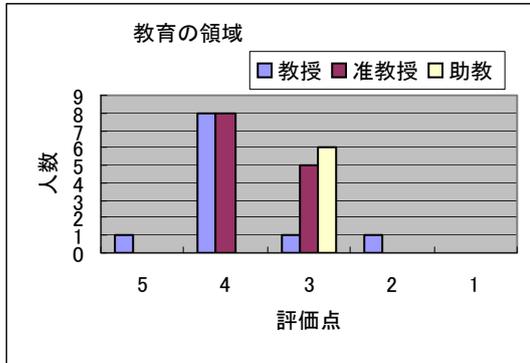
【物理科学科】



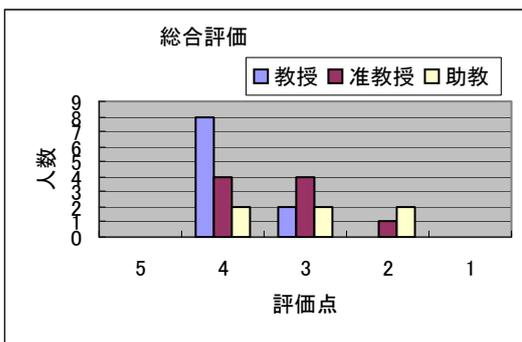
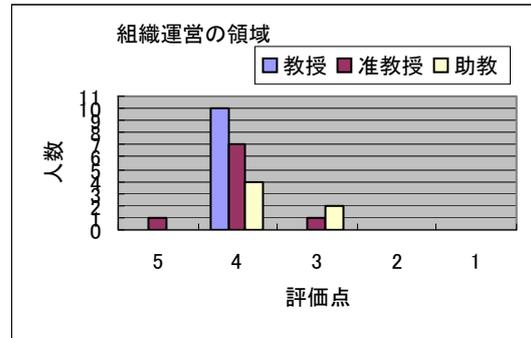
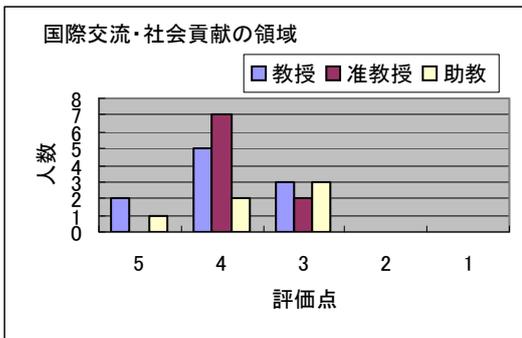
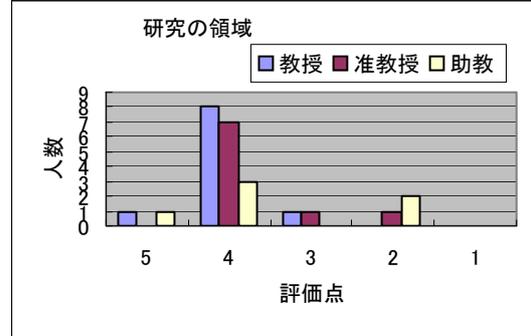
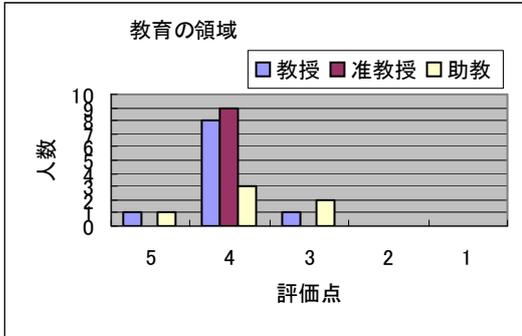
【知能情報システム学科】



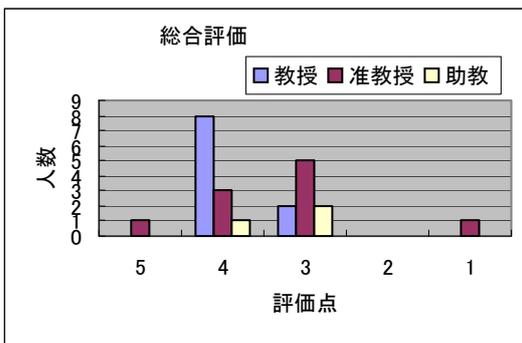
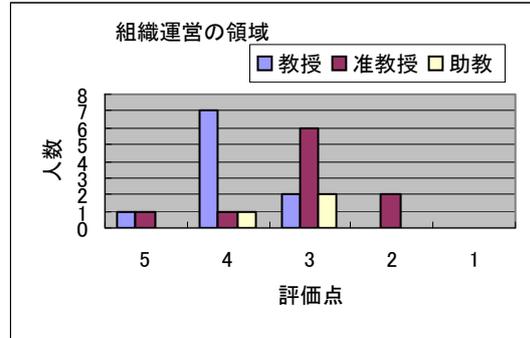
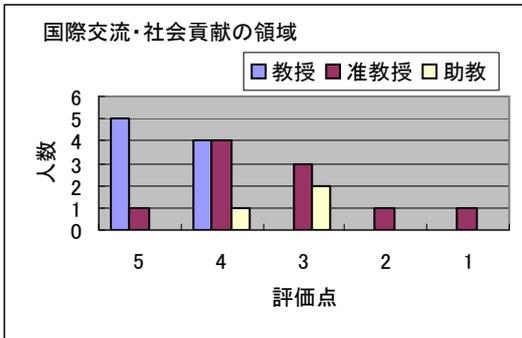
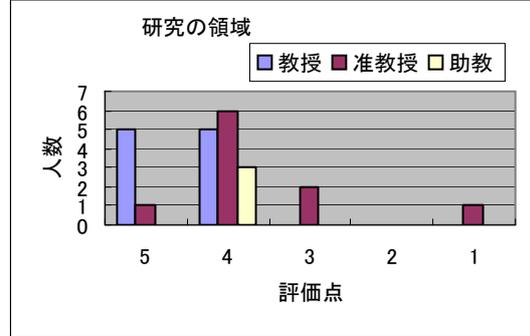
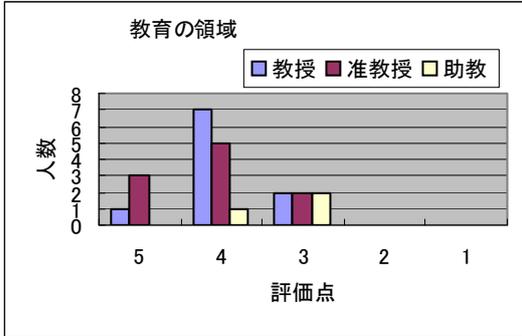
【機能物質化学科】



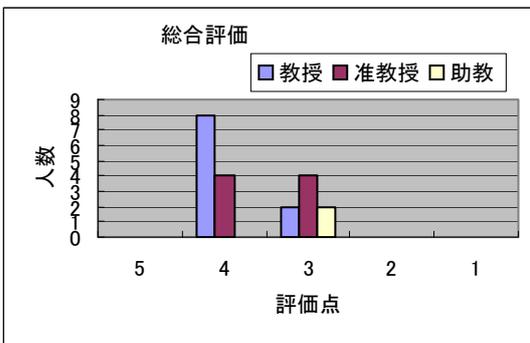
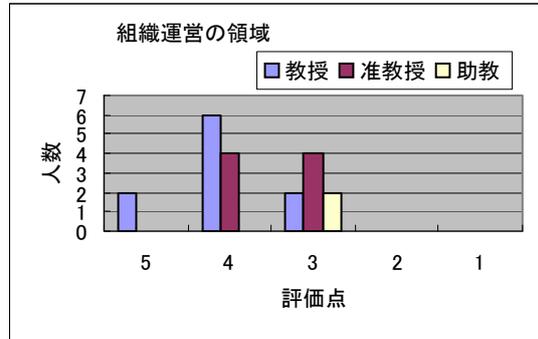
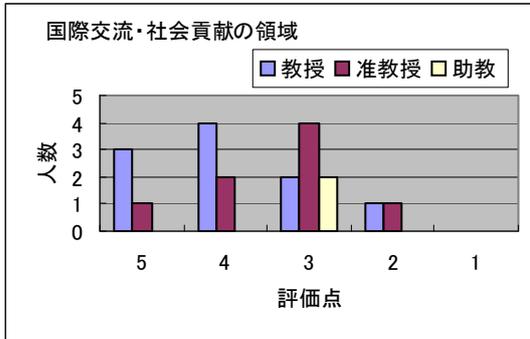
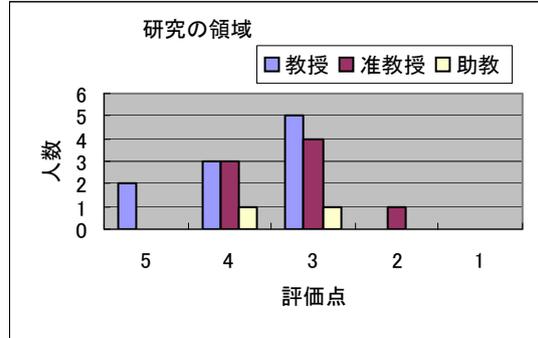
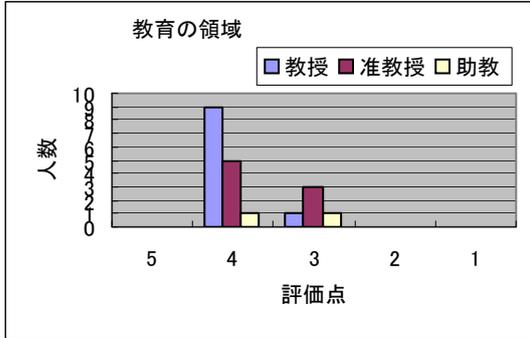
【機械システム工学科】



【電気電子工学科】



【都市工学科】



4.3. 評価委員からのコメント

評価委員の試行に関するコメントを以下にまとめる。

【数理科学科】

- (1) 教育の領域における教育改善については、昨年度より今年度の方が豊富であり、教育改善のための努力や工夫、特に新しい教材の導入や、ホームページの活用など向上している。
- (2) 研究の領域においては、概ね良好な研究活動が行われている。
- (3) 教員個人評価については、各教員の価値基準にまだばらつきがあるものの、平成18年度に比べ、教員の自己評価はより客観的になりつつある。

【物理科学科】

- (1) 教員個人の活動実績は1つの様式で集約できるようになり、情報収集の効率化が図られている。
- (2) エフォート率の学科平均は、教育活動が51.1%、研究活動が30.0%、社会貢献が2.0%、組織運営が15.4%となっており、教育に重点が置かれている。他の領域でも、教員報告様式にあるように、各教員が多くの実績をあげている。
- (3) 最近の、特に教育改善の取組みにより、各教員の設定する目標が高くなる傾向がある。そのため、各領域の評価点と総合評価の数値は同じでも、個人評価が始められた当初より実績は向上している。この点に関して教員の間で認識の差があるため、達成目標及びその達成率と自己評価点の水準が、教員の間で共通しているとは言えない。

【知能情報システム学科】

- (1) 教育改善、共同研究、社会貢献に関する取り組みが多数報告されるようになっている。
- (2) JABEE認定を受けているため、特に教育改善について教員各自の努力が積み重ねられていると思われる。
- (3) しかしその影響か、研究実績が低調である教員が散見される点は今後の課題である。

【機能物質化学科】

- (1) 機能物質化学科では、教員個人がそれぞれ発揮できる領域において優れた成果を挙げており、全体的に見て各領域において大きな貢献をしていると判断できる。教育においては、学部教育においては「機能材料化学コース」がJABEE認定され、教育の高い評価を受けた。大学院の学生の指導も充実しており、特に博士後期課程のエネルギー物質科学専攻定員（ $9 \times 3 = 27$ 名）を超えた33名の学生を指導している。研究においても、科研費以外の外部資金の獲得にも大きく貢献している。また、エコアクション等の安全管理にも機能物質化学科は学内で先導的活動を行っており、大きく貢献していると考えられる。
- (2) 機能物質化学科は、教育、研究を含め各領域に大きく貢献しているが、退職及び転出教員のポストの補充がなされず、現在、人員不足による教育等の実施に支障が出てきているので、早く改善されることが望まれる。

【機械システム工学科】

- (1) 教育については、担当教員の定年退職に伴う減少や大学院博士前期課程の必修科目の導入伴

い、教員の授業担当数が大きく増えている。教育に関する取り組みについては各々の教員が工夫を重ねて学生に理解させようとする努力が見られる。また、機械システム工学科の教育プログラムは日本技術者教育認定機構の JABEE 認定の継続審査を受審し、認定継続が決定している。教員の日々の研鑽によりこれらの結果を導かれている。

- (2) 研究については、活発に論文を発表しており、共同研究・外部資金・奨学寄附金等の受け入れも積極的に行われており、企業等が機械システム工学科の研究へ、高い関心を持っていることが分かる。
- (3) 社会貢献・国際交流についても、学会等の役員および委員会委員として活動し、また、講演会や研究会を積極的に開催している。外国人研究者の受け入れや、国際会議おいての発表も積極的である。

上記(1)～(3)と自己評価結果を勘案して、各教員は各自の活動の自己評価を適切に行っていると判断できる。

【電気電子工学科】

- (1) 各領域について学科独自の目標を掲げ、それぞれ概ね達成されている。
- (2) 教育改善や社会貢献実績などについては多様な内容で実績を上げている。
- (3) 各人による評価基準が統一されていないために、この結果を利用した相対評価は困難である。即ち、総合評価については、教員の考え方や信念に基づいて極端に低く自己評価した事例があり、またその逆の事例もある。

【都市工学科】

- (1) 教育について：IT ツールを使った講義の実践が平成18年度より増えている。学生の学会発表と受賞数は概ね前年度と同じである。また、大学及び理工学部が主催するFD活動の参加について、改善の余地がある。
- (2) 研究について：原著論文数が平成18年度より減っている傾向がみられるが、科学研究補助金額は増えている。今後研究活動の一層の強化が必要である。
- (3) 全体として、都市工学科は平成18年度からコース制（都市環境基盤コースと建築・都市デザインコース）を導入して、平成19年度初めて、学部生を二つのコースに分けられて、教育・研究の高度化、地域貢献の促進を図っている。この環境において、平成19年度都市工学の教育・研究活動は順調に進んできた。

平成20年度理工学部評価委員会委員名簿

委員長	中 島	晃	(理工学部長)
委員	吉 野	英 弘	(副学部長、佐賀大学評価委員)
委員	渡 邊	訓 甫	(副学部長)
委員	林 田	行 雄	(副学部長)
委員	山 部	長兵衛	(佐賀大学評価委員)
委員	渡 邊	健 次	(理工学部教務委員長)
委員	小 林	孝 行	(数理科学科学科長)
委員	船久保	公 一	(物理科学科学科長)
委員	渡 邊	義 明	(知能情報システム学科学科長)
委員	大 和	武 彦	(機能物質化学科学科長)
委員	萩 原	世 也	(機械システム工学科学科長)
委員	相 川	正 義	(電気電子工学科学科長)
委員	柴	錦 春	(都市工学科学科長)
委員	志 波	政 孝	(理工学部事務長)